

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
感性学		平嶋 一臣		1	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE1102	
		担当教員	平嶋 一臣					

幼	科 目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列							

【キーワード】		【概要】						
1	感性	21世紀は「感性」の時代と言われる。では、なぜ今、このことが重要視されるに至ったのだろうか。そこには、昨今みられる「人間関係の希薄化」「自然体験の形骸化」による人間本来の「自由闊達な発想」力の低下や「人権感覚の欠如」が人間社会の閉塞感をもたらし、これを危惧している姿が浮かんでくる。「人間性回復」のための現状打破が急務なのだ。この世に生を受けたばかりの「ヒト」が、やがて「人」となり、さらに成長し、「人間」へと向かうその過程で、最も大切な学びは、人間的な感性の享受に基づく自己変革である。そのためにも、「感性」「感性教育」の解釈や学びは、曖昧なままでは済まされない。授業では、「感性」の意義、「感性教育」の方法について、できる限り具体的な場面を想定し、自らの五感が確かめる体験型に努める。						
2	感性教育							
3	気づき							
4	五感							
5	感覚協働（法）							

【到達目標】								
1. 「感性」は、人間にとっての思考・行動の源泉であることに気づき、さらに新たな自分を創造することができる。								
2. 人間関係づくりの基本であり前提となる自己の感性磨きに努めることができる。								
3. 「感性学」を学び、日々新たな自己発見を行うと共に、他人・他物との共生について主体的に考えることができる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標		定期試験			課題レポート			合計
評価割合（％）		70			30			100
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語		評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。		
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。		
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。		
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
毎時、課題レポート提出がある。これを添削し次回の授業前に返却する。返された提出レポートでの気づきや修正点を基に復習を行った後、本時の授業をスタートする。			
【教科書】			
【参考書・参考資料等】			
平嶋一臣 編・著『講義資料』 感性を考える会編『感性のひらめき』（紅書房）			
【関連科目】			
教育方法論・教育原理・教育心理学・幼児教育論			
【受講心得】			
事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 毎時間、配布プリントを中心に講義を進める。基本的に欠席は認めない。やむを得ず欠席した場合は、すみやかに平嶋研究室（本館426）で課題を受け取り、次回授業の前日までに提出する。			
【備考】			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション・「感性」の時代がやってきた（含・「感性」に関するアンケート）		<学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要および事前・事後の学習の仕方について説明する。なお、今後の参考とするために、「感性」についてのアンケートを行う。 <事前学習>15回分の講義要項（シラバス）に目を通し、質問内容をまとめておく。（0.5時間） <事後学習>15回の講義要項の概要を再確認しておく。（0.5時間）
2	「感性」についてのさまざまな研究事例を知る（感性を哲学する）		<学習内容>教育史における「感性」研究の変遷を知り、今後の「感性学」研究の在り方を、哲学（美学）的視点から捉え、今後の受講に、各自、より明確な方向性を持つ。 <事前学習>自分の考える「感性」を発表・説明できるよう、あらかじめ200字程度にまとめておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
3	義務教育期における「感性教育」の実態を知る（感性育ては可能か？）		<学習内容>そもそも、「感性」は教育できるものなのか、先天的なものなのか、幼児・児童・生徒の発達段階と教育との関係を、自らの幼・小・中期の体験・経験と重ねて考える。 <事前学習>あらかじめ、「教育方法」「教育原理」「教育心理学」に関する本を最低1冊は読み込んでおく。持っていない場合は図書館から借りる。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
4	幼児期における感性教育の重要性を考える（脳生理学的視点から）		<学習内容>「感性」は育つもの・育てられるものであることを前提に、幼児期および脳生理学的な見地から、幼児期における「感性教育」の重要性に気づく。 <事前学習>脳の構造図を基に、最下層感覚部から上層感覚部までの積み重ねの具体的な位置について調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）

5	絵画の世界に潜む作者および自分の感性を知る	<学習内容>モジリアーニの絵を題材に、目と耳の感覚を協働させ、作者の絵画表現を批評する。またミロの抽象画から、ファンタジック物語の創作も試みる。 <事前学習>図書館にある日本・世界の名画全集から一巻を選び、新たな「気づき」を報告できるよう準備する。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
6	音楽の世界に潜む作者および自分の感性を知る	<学習内容>日本民謡に表われる地域性および日本と西洋の子守唄の成立過程について学び、その根本的な違いに気づくとともに、旋律・リズム・歌詞の関係を考える。 <事前学習>自分の故郷の民謡や、自分の聴いた子守唄について、紹介できるようにまとめておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
7	書（線）・書のリズムに表われる、作者および自分の感性を考える（「書は人なり」について）	<学習内容>空海・最澄の往復書簡を題材に、二人の書跡の根本的な違いを学び、その後の交流の断絶という事実との関連性を考えることができる。 <事前学習>これまでの「習字」や「書道」の体験から、自分の「書」に対する印象を200字程度にまとめておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
8	文学の中に表われる感性について学ぶ（小説・散文を中心に）	<学習内容>芥川龍之介作『鼻』を通して、若き日の作者が見抜き描き訴えたかった人間の自尊心や弱点を知るとともに、人は如何に生きるべきかについて、自分の考えを持つ。 <事前学習>芥川の短編集を読み、「人間」をキーワードに、その底流に流れる作者の訴えをまとめておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
9	文学の中に表われる感性について学ぶ（短歌・俳句を中心に）	<学習内容>世界で最も短い詩と言われる伝統俳句・自由律俳句を読み、そこに潜む日本（人）独特の感性に気づくとともに、批評精神の基本を学ぶ。 <事前学習>芭蕉・蕪村・一茶・子規の俳句および新聞五紙の歌壇から、自分の印象に残った作品をメモしておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
10	日本の伝統芸能（能）に表われる独特の感性について学ぶ	<学習内容>日本の伝統的な芸能である能『隅田川』に見られる、観世元雅独特の発想・脚本・演出と父・世阿弥の演出法との対立から、そこに潜む日本的感性について考える。 <事前学習>日本の伝統文化・伝統芸能について、そのジャンルを説明できるまでになっておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)

11	スポーツおよび芸術と感性の表われを知る（感性の諸様相について）	<学習内容>勝ちにこだわるスポーツマンの存在について再考し、今後、スポーツの在り方は如何にあるべきか、その原点として、「感性磨き」との関連性を考える。 <事前学習>昨今のスポーツマンの不祥事について、自分はどう考えるのか、あらかじめ意見をまとめておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
12	人間力・コミュニケーション能力と感性との関係を知る	<学習内容>「感性」の豊かさや不足は、現実の世界でどのような結果をもたらすのか、具体的な事例や経験を挙げ、実生活上の人間関係性との接点について考える。 <事前学習>過去の経験から、「感性」豊かな人の行動と結果、「感性」不足による失敗の事例をまとめておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
13	人権感覚と感性育てとの相関を考える	<学習内容>古典落語『あたま山』の背後に潜む人間社会の暗部に気づく。また常の人権感覚維持には、自己についての冷静な振り返りと客観的な分析が求められることを知る。 <事前学習>過去に学んだ人権学習を想起し、特に印象に残っている授業について、発表できるようまとめておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
14	情報化社会における感性の在り方を考える（主に映像・メディア・マスコミの態様を中心に）	<学習内容>インターネットと新聞の情報の基本的な違いに気づき、「感性」不足が実生活においてどのような結果につながるかについて考える。 <事前学習>ネット情報と新聞のリード記事・本文との比較資料をあらかじめ（図書館などで調べ）準備しておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
15	人間の幸せについて考える（経済的貧国と精神的な豊かさについてブータン国を例に）	<学習内容>人間の幸せとは何なのか。幸せの原点を、経済的な豊かさ・精神的な豊かさの相関について考え、ブータン国やその国民性を基に、自分の幸福観・幸福論を持つ。 <事前学習>GNP・GDP・GNHの意味を再確認し、ブータン国の世界的評価について、多面的な角度から調べておく。(1時間) <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)
16	定期試験	<学習内容>15回の授業を終え、「感性学」についての基本用語の理解および多分野において自分の考えを持つことができたか客観的に知る。 <事前学習>これまでに渡した15冊の資料集を振り返り、印象に残っている題材や資料を中心に復習しておく。(1時間) <事後学習>本日の試験を振り返り、『感性学』の授業受講後の自分の変化・成長についてまとめる。(1時間)

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
コンピュータ演習 (こども学科)		石橋 晃一	1	前期	演習	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE1105
		担当教員	石橋 晃一				

幼	科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	情報機器の操作		
保	系 列			

【キーワード】		【概要】	
1	セキュリティ対策	情報通信技術の発展に伴い、コンピュータに代表されるような情報機器はビジネスのみならず家庭にも普及し、現代人には必要不可欠な道具のひとつとなった。この演習においては、本短大コンピュータ室の機器の使い方やアプリケーションソフトの具体的な操作を通し、情報の収集、整理、処理、伝達手法を学び、今後の各種レポート作成などに利用活用できるように。さらに、急激に普及し身近になったSNSの利用やネットワークセキュリティポリシーなど、演習を行いながら昨今の情報化社会で役立つ技術やリテラシーを身につけることを目的とする。	
2	コンピュータリテラシー		
3	コンピュータスキル		
4	インターネット・メール		
5	情報基礎		

【到達目標】	
1. パーソナルコンピュータの基本的な操作ができる。	
2. インターネット、SNSの知識を習得し、取り扱うファイル、画像など説明ができる。	
3. Microsoft Office (Word、Excel、Powerpoint) ソフト等を使い活用できる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験の成績	授業課題作成提出内容	受講態度等	合計
評価割合 (%)	60	20	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
試験終了後、合格点に満たない場合は同程度の再試験を行うものとする。		
【教科書】		
教科書は指定しない。		
【参考書・参考資料等】		
一部配布物あり、適宜、指示する。		
【関連科目】		
【受講心得】		
遅刻・欠席をしないこと 授業中の内容は自身のノートにまとめること ※ノートは定期試験時は閲覧不可。 提出した課題制作のデータについては自身で授業中に保存し、定期試験時に閲覧可能とする。 講義中に学生の進捗状況を確認できるモニタ監視ができる教育支援システムを使用している。		
【備考】		
卒業必修、保育士課程必修、幼稚園教諭必修		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーションおよびコンピュータ基本操作	<学習内容>パソコンの起動、ログインからログアウト、電源シャットダウン（終了）まで。 現状スキルアンケートの実施。 学内LAN設定。 今後の流れ（自身の学内情報：学籍番号やパスワード確認） <事前学習>シラバス確認/自身の学内情報持参（0.5時間） <事後学習>講義内容を復習（0.5時間）
2	SNS利用上の注意およびICTセキュリティ	<学習内容>ネットリスクとSNS危機管理 学内ネットワーク、共有ディスクなどの使い方、学術情報。 文字入力（基本操作）とデータの保存 ※以後、配布物と合わせて、自身のリフィルなどに要点を書いてまとめること。 <事前学習>自身でパソコンの立ち上げログインから、文字の入力まで（0.5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）
3	ネットを活用して調べる（ICT機器の活用）	<学習内容>ホームページの閲覧方法と、インターネット（ネットワーク）の仕組み ネット上の危機感と、情報リテラシーについて <事前学習>自身で行っているセキュリティ対策とコンピュータを活用して何が出来るかを考えておく（0.5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）
4	パソコンのしくみを学ぶ	<学習内容>ファイルの保存、ファイル・フォルダの名前の付け方、管理方法。 USBメモリや外部ストレージ、クラウド、オンラインストレージなどの違い。 <事前学習>講義で使うパソコンの種類や、OS（オペレーションシステム）とは何か調べておく（5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）
5	電子メール	<学習内容>メール設定（学内PC Office365 Outlook） メール仕組みを学ぶ。 課題メール送信（メールの送受信） <事前学習>自分の学内メールアドレス（パスワード等）を確認（0時間） <事後学習>最初は資料を見ながら、後に見ずにメールを送受信できるように復習すること（0.5時間）※授業内で課題メールが送信できなかった人は授業後にも送信すること。
6	印刷・レイアウト、ファイルのやり取り	<学習内容>ファイルの保存から、印刷カラープリント（プリンター）使い方 オンラインストレージ（OneDrive）パソコン及び、スマホデータの共有方法 <事前学習>講義2回目の、データの保存方法や保存先を復習（0.5時間） <事後学習>パソコンのデータの保存先、またデータの場所を理解する（探せる）（0.5時間）

7	グラフィックス- 情報メディア・画像加工について	＜学習内容＞パソコンの画像について（種類やファイル形式）パソコンのデータを学ぶ（容量や拡張子など） 画像のサイズ変更、用途により画像の種類（形式）を変更（比較）する。 ＜事前学習＞パソコンのデータファイルの見方（プロパティ）を調べておく（0.5時間） ＜事後学習＞講義で聞いた要点、データの種類や容量単位を復習すること（0.5時間）
8	文書整形1（図日よりやクラス日より）	＜学習内容＞メモ帳を利用し、テキスト形式で文字入力。 Microsoft Officeソフト Word（文章作成ソフト）基礎（文字入力、コピーペースト、均等割り付け、タブ設定など） ＜事前学習＞文字の入力（ローマ字など）や文字切り替え、キーボード操作ができていないこと（0.5時間） ＜事後学習＞簡単な操作など、パソコンに慣れ始めるころ、ショートカットキーを復習、習得すること（0.5時間）
9	文書整形2（図日よりやクラス日より）	＜学習内容＞Wordへの画像（写真・イラスト）の差し込みや地図の作成、飾り、回り込み、一印刷し提出、データ提出まで ショートカットキーを習得※資料配布 ＜事前学習＞ショートカットキーが何も見ずに習得できていること（0.5時間） ＜事後学習＞これより毎回講義の課題は提出。データの保存から、所定の場所へ提出するスキルを復習。（0.5時間）
10	文書整形3（画像を組み合わせる）	＜学習内容＞Wordへのテキストボックス、表組み、罫線、簡単な計算表によるレイアウト作業（画像・テキストを配置） ショートカットキー※小テストあり ＜事前学習＞Wordの立ち上げ方から、保存したデータの開き方、前回までの作業を復習しておくこと（0.5時間） ＜事後学習＞これまでのWordの課題を、自分一人で作業できるように、やり方などをノートにまとめ、実際に作業を復習しておく（1時間）
11	データ処理（Excelを利用したスケジュール	＜学習内容＞Excelグラフの作成 （円グラフ、縦棒・横棒グラフ、行・列の切り替え、表示形式の変更） グラフなどを追加し、視覚的にわかりやすい表を作成する。 ＜事前学習＞数学での表グラフの特性（X,Y軸、+,−の値）を復習しておく（0.5時間） ＜事後学習＞本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）
12	データ処理（クラス表など）	＜学習内容＞Excelを利用し表の作成、簡単なレイアウト作業（計算、平均値など） 実習応用で名簿や、栄養管理票、統計表などを作成。 ＜事前学習＞コピーペーストやショートカット、オートフィルの機能操作をマスターしておくこと（0.5時間） ＜事後学習＞本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）
13	データを組み合わせた文書の作成	＜学習内容＞Excelグラフの作成 （円グラフ、縦棒・横棒グラフ、行・列の切り替え、表示形式の変更） グラフなどを追加し、視覚的にわかりやすい表を作成する。 ＜事前学習＞数学での表グラフの特性（X,Y軸、+,−の値）を復習しておく（0.5時間） ＜事後学習＞本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）
14	プレゼンテーション	＜学習内容＞Microsoft Officeソフト PowerPoint（プレゼンテーションソフト）基礎（文字や写真、イラストの配置） 見栄えの良いカトラリー（課題）を作成する。 ＜事前学習＞Word,Excelへの画像の貼り付け方、テキストボックスの使い方を復習しておく（0.5時間） ＜事後学習＞本日の講義の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）
15	試験対策（総復習）	＜学習内容＞統括実習（WordへExcel表データを組み込むなど） ＜事前学習＞全ての配布物、講義の要点、ノートをまとめる。※欠席などで不足が無いかなど（0.5時間） ＜事後学習＞※これまでの授業で提出した課題のデータをまとめる。わからない箇所などを質問し、試験に向けて復習する。（2時間）

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
英語コミュニケーション		ストイコビッチ ボジダ		1	前期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE1106	
		担当教員	ストイコビッチ ボジダ					

幼	科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	外国語コミュニケーション		
保	系 列			

【キーワード】	【概要】
1 英語で考える	積極的にクラスアクティビティに参加し、簡単な英会話から始めることにより、コミュニケーションスキルの向上を目指します。あなたにとって興味のある分野について、相手に英語で伝えることができれば、世界が広がります。さあ、楽しみながら学びましょう。
2 英語で話す	
新しく習った単語を 使って文章を書く	
4 発音を意識する	
5 間違いを恐れない	

【到達目標】
1. 英語でのコミュニケーションを楽しむことができる。
2. 英語に自信を持つことができる。
3. 英語で単純な会話ができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】				
成績指標	発表	課題提出	定期試験	合計
評価割合（％）	30	30	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			課題、試験後に解答の解説をする。
【教科書】			制作した教材を使用
【参考書・参考資料等】			授業内で配布されるプリント等
【関連科目】			
【受講心得】			授業内においては、常に英語で話すこと。日本語は許可した場合のみとする。失敗を恐れず、「失敗は成功のもと」という気持ちを持って臨むこと。
【備考】			卒業選択必修、保育士課程必修、幼稚園教諭必修
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	自己紹介（お互いを知る） Getting to know each other		・自己紹介 ・相手の自己紹介に対する返事、反応 ・クラスで役立つフレーズ（便利な言い回し） 《事前学習》シラバスを読んでくる（30分程度） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
2	家族について Talking about FAMILY		・家族や親せきの紹介の仕方 ・家系図の作成 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
3	色と服装について Talking about COLOR and CLOTHES		・好きな色を発表 ・人がどんな服装をしているか ・相手のファッションの褒め方 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
4	仕事の動作 WORK ACTIVITIES		・現在完了（present perfect）や単純過去時制（simple past tense） ・can and can't できる・できないの使い方 ・経験について語る 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
5	数字について Talking about NUMBERS.		・序数や基数について確認する ・電話番号や住所の伝え方、聞き方、確認の仕方（警察など緊急連絡先） 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
6	からだについて Talking about BODY		・からだの部分・部位 ・病気と健康について ・健康である為のアドバイス（伝え方） 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）

7	スポーツについて Talking about SPORTS	・道具を使つてのスポーツの説明 ・スポーツの説明 ・運動の能力 ・体調 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
8	時間について Talking about TIME.	・時間の聞き方、答え方 ・日常生活の説明 ・何かに対する頻度の度合い 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
9	食べ物・飲み物について Talking about FOODS and DRINKS.	・一般的な食べ物と飲み物 ・好きな食べ物・飲み物 ・ファーストフード店（レストラン）での注文の仕方 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
10	カレンダーについて Talking about the CALENDAR	・月と曜日 ・大事な行事を共有（話し合い） ・世界の様々な行事 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
11	動物について Talking about ANIMALS.	・海や牧場、野生動物の名前 ・比較級と最上級 ・形容 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
12	世界各国について AROUND THE WORLD(世界一周)	・国籍や言語 ・世界遺産 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
13	果物と野菜について Talking about FRUITS and VEGETABLES	・一般的な果物と野菜の名前 ・原産地について ・ショッピングリストを作ってみよう 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
14	街の風景 AROUND THE TOWN	・道の尋ね方 ・案内の仕方（徒歩の場合） 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
15	最終準備と課題発表 Final Preparation & Project Presentation	レビューと統合 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）

16	Final Exam		
----	------------	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
純真ゼミナールⅠ		都築 廣久	1	前期	演習	必修	1
		担当形態	複数		ナンバリング		
		担当教員	福田 庸之助、食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、保坂 真紀、外部講師				

幼	科 目		
	施行規則に定める科目区分又は事項等		
保	系 列		

【キーワード】	【概要】
1 学園訓	本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。
2 建学の精神	
3 気品	
4 知性	
5 奉仕	

【到達目標】
1. テーブルマナーにより「気品」を醸成させていくことができる。
2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。
3. 学士基礎力講座により「知性」を練磨させていくことができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】			
成績指標	取り組み姿勢	課題・提出物	合計
評価割合（％）	60	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	各講座に極めて積極的に取り組み、課題・提出物にも必要な内容を的確に記述している。		
A	各講座に積極的に取り組み、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。		
B	各講座に積極的に取り組んでいるが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。		
C	各講座に取り組んでいるが、課題・提出物が必要最低限の内容の記述である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。			
【教科書】 特に指定しない。適宜資料を配付する。			
【参考書・参考資料等】 特に指定しない。			
【関連科目】 「純真ゼミナールⅡ」			
【受講心得】 主に班単位で受講するため、お互いに協力して、自ら積極的に活動に取り組むこと。			
【備考】 卒業必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	学長講話 ～学園訓・建学の精神について～	福田	<学習内容>本学園の学園訓、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」を紹介するとともに、学園を設立した福田昌子女史の想いについても触れる。 <事前学習>本学園の学園訓について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>学長講話の内容をレポートにをまとめて提出すること。（1.0時間）
2	知性を磨く講演会 ～博多学～	平嶋	<学習内容>純真学園の位置する大橋・福岡・博多の歴史・地理・文化を知るとともに、郷土に愛着を持つ。 <事前学習>福岡・博多の歴史について、図書館などで事前に調べておく。大橋・筑紫丘周辺の神社仏閣を中心に散策する。（2.0 時間） <事後学習>授業で紹介した以外の名所旧跡についても、時間を見つけて散策し、さらに郷土への愛着を深める。（4.0 時間）
3	キャリアガイダンス（1） ～外部講師講話～	松藤・外部講師	<学習内容>キャリアガイダンスの第一回目であるため、就職活動の基本である「就職活動支援」と「労働法」を中心に説明する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。（0.5時間） <事後学習>就職活動の基本に関する概要を復習しておくこと。（0.5時間）
4	日本語検定講座 ～日本語検定試験対策講座～	都築	<学習内容>6月に受験する特定非営利活動法人日本語検定委員会主催の日本語検定試験4級の概要を解説するとともに、練習問題に取り組む。 <事前学習>日本語検定試験4級について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。（1.0時間）
5	ジェンダー ～お姫様とジェンダー～	石橋	<学習内容>お姫様（白雪姫、シンデレラ、眠り姫など）で描かれる女性たちは王子様との出会いによってハッピーエンドを迎える。このような女性像に対してそれは文化的社会的につくられた見方だ（ジェンダー）という批判もある。このジェンダー観について考える。 <事前学習>白雪姫、シンデレラ、眠り姫の物語を読んで、そこで描かれる女性像について考えてくること。（1.0時間） <事後学習>授業で配付した資料を参考にジェンダーについて考えること。（1.0時間）

6	世界の宗教 ～キリスト教とイスラム教～	石橋	<学習内容>宗教の誕生と必要性について考え、世界宗教としてのキリスト教とイスラム教について考える。またこれらの教えの始まりや内容について概説する。 <事前学習>キリスト教とイスラム教について調べてくること。(1.0時間) <事後学習>授業で配付した資料を参考にキリスト教とイスラム教について考えること。(1.0時間)
7	ペン習字 (1)	平嶋	<学習内容>「美しい文字」と言われる漢字の特徴・ひらがな・片仮名の50音をリズム良く纏まり良く書けるようになる。 <事前学習>自分にとってまとまりがつきにくい、苦手な漢字・片仮名・ひらがなについて、あらかじめメモしておく。(1.0 時間) <事後学習>自分にとってまとめ方が苦手な漢字・ひらがな・片仮名を再度丁寧に練習しておく。(1.0時間)
8	ペン習字 (2)	平嶋	<学習内容>漢字・ひらがな・片仮名の混じった文章のまとめ方を学び、実生活での必要な文面が書けるようになる。(挨拶文・年賀状その他)。 <事前学習>季節の挨拶文・年賀状など、実物または、図書館での資料を調べ、その基本形をまとめておく。(1.0時間) <事後学習>自分にとって苦手な文字について何度も書き直し練習をしておく。(1.0時間)
9	日本語検定試験	都築	<学習内容>6月に特定非営利活動法人日本語検定委員会主催の日本語検定試験4級(漢字、表記、敬語、言葉の意味、語彙、文法)を受検する。 <事前学習>日本語検定4級の過去問題とを調べておくこと。(1.0時間) <事後学習>試験問題を振り返り復習をしておくこと。(1.0時間)
1 0	学士基礎力講座 (1)	都築	<学習内容>敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語)の種類と働き、言い表し方、複数の意味を持つ敬語、適切な遣い方、敬語の誤用について学ぶ。 <事前学習>敬語の種類を調べておくこと。(0.5 時間) <事後学習>場面に応じた敬語の正しい遣い方を復習しておくこと。(0.5 時間)
1 1	学士基礎力講座 (2)	都築	<学習内容>可能動詞、受け身と使役、接続語、言葉の関係、類義語、対義語、多義語、慣用句、同音異義語、四字熟語について学ぶ。 <事前学習>類義語、対義語、同音異義語、四字熟語について調べておくこと。(0.5 時間) <事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。(0.5 時間)
1 2	テーブルマナー ～和食～	下村	<学習内容>お箸の正しい使い方や器の取り方、各種料理のいただき方などを説明する。 <事前学習>食事の際に必要なマナーについて考えておくこと。(0.5 時間) <事後学習>学んだ作法を食事の際に活用しながら、基本的なマナーを身につけること。(0.5 時間)
1 3	テーブルマナー ～洋食～	宅間	<学習内容>テーブルマナーとは何か、予約の仕方、服装、メニューの構成をはじめナフキン・カトラリーの扱い方をコース料理に沿って解説する。 <事前学習>授業の前に洋食のテーブルマナーについて調べておくこと。(0.5時間) <事後学習>日常の食事をとおしてマナーが身につけられているか確認をすること。(1.0時間)
1 4	美術・アート鑑賞	難波	<学習内容>現代の多様な芸術表現を鑑賞するなかで多様な価値観、考え方を知る。また、アートセラピーについて学習する。 <事前学習>味のある作家や作品について調べておくこと。(1.0時間) <事後学習>興味のある作家や作品について考えてみること。(1.0時間)

1 5	アーティスティック 絵画レッスン	保坂	<学習内容>講師の美術活動よりお勧めのオリジナル絵画技法を体験する。創造の世界を楽しみながら拡張、個々の豊かな活動につなげる。 <事前学習>様々な分野のアートに触れておく。(1.0時間) <事後学習>受講したことを個々の活動にどう反映できるか考えてみる。(1.0時間)
-----	---------------------	----	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
体育実技		谷川 裕子		1	前期	実技	選択	1
		担当形態	複数		ナンバリング		CE1114	
		担当教員	松田晃二郎 石原勇次郎 田上友季也					

幼	科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	体育		
保	系 列	教養科目・体育		必修

【キーワード】	【概要】
1 教養科目	「身体活動の楽しさや喜びを自ら体験するとともに、その喜びを他者にも提供できる」ことを目的とし、人とのコミュニケーションを含むさまざまな身体活動を行なう。高校までの体育で培った技能や経験は人により様々である、体育技能は多様性が表れやすいため、本授業は今までの技能のみには頼らない、多様性を認め、活かすチームワークづくりを目指すスポーツ・運動を行う。 また運動が健康に与える影響について身を持って体験し、健康を維持していくための運動強度を学習する。自分自身の体力レベルを知るために簡易な測定法を用いて、実際に体力レベルを測定する。 ※理解度や進行度、施設の状況などにより、授業内容を変更することもある。
2 運動	
3 健康	
4 体力	
5 チームづくり	

【到達目標】
1. 運動を通じて、自らの健康を維持・改善していくための資質や能力を養うことができる。
2. 多様性を認め、活かしていくチームが作れる。
3. 日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】			
成績指標	受講態度	課題提出	合計
評価割合（％）	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	実技内容を十分に理解しており、積極的な参加活動が見られ尚且つ他者を理解に立った自己主張ができ、課題解決できる。		
A	実技内容を理解しており、積極的な参加が見られるものの、他者関係を良好に保ち、課題解決に達する。		
B	実技内容を総じて理解しているが、受動的な参加であり、自己表現に及ばないが課題を行うことができる。		
C	実技内容の概要を理解しており、実技、提出課題に対して最低限の参加があった。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
課題については返却時にコメントを付ける。			
【教科書】			
資料配布			
【参考書・参考資料等】			
随時紹介			
【関連科目】			
「体育理論」			
【受講心得】			
積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。 毎回、ジャージ、体育館シューズを着用のこと。			
【備考】			
保育士課程必修、幼稚園教諭必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（身体ほぐしの運動）	全員	【学習内容】本授業の流れを説明、身体ほぐしをワークを行う。 【事前学習】シラバスを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
2	体力測定	全員	【学習内容】体力測定（握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び）を行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
3	体力測定	全員	【学習内容】体力測定（持久力）を行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
4	体力測定	全員	【学習内容】体力測定の振り返りを行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
5	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）

6	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
7	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
8	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
9	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
10	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
11	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
12	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
13	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
14	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）

15	まとめ	全員	【学習内容】運動・スポーツを通して得られた経験をまとめる。【事前学習】今までの授業の総復習を行う（1時間）【事後学習】本授業で得られた知識を今後の活動に活かせるようまとめる（1時間）
----	-----	----	---

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育原理		豊永 せつ子	1	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE1201
		担当教員	豊永 せつ子				

幼	科 目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の本質・目的に関する科目					必修

【キーワード】		【概要】						
1	保育と子ども理解	保育とは、子どもの現在と未来とをつなげる営みで、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図る養護と子どもの心身の成長・発達を促し、導いていく教育とが一体となった営みでもある。このことを基盤に「保育原理」では、保育の意義や平成29年改訂の『保育所保育指針』における保育の基本、さらに保育の内容と方法、保育の思想とその史的变化について理解する。これらのことを踏まえて保育の現状と課題について考察する。						
2	保育の内容							
3	保育の方法							
4	保育の歴史							
5	保育と子育て支援							
【到達目標】								
1. 保育とは何か、その基本である意味や意義を理解できる。								
2. 保育の場である保育所・幼稚園・認定こども園の保育や役割を理解できる。								
3. 保育の歴史を学んだり、保育の今日的課題を考察して自ら望ましい保育観、保育者観を構築できる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性	
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標		受講態度		課題・発表		定期試験		合計
評価割合（％）		10		10		80		100
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
取り組み姿勢とレポートに関するコメントを返却する。		
【教科書】		
『保育原理』 ミネルヴァ書房		
【参考書・参考資料等】		
『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』		
【関連科目】		
「保育内容全般」「保育者論」「実習及び実習指導全般」		
【受講心得】		
積極的な学習態度で授業に臨むこと。		
【備考】		
保育士課程必修		
授業の中で、小テストやグループ発表を行います。		
【学習項目】		担当 学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 「保育」とは	〈学習内容〉 幼稚園、保育所、認定こども園の成り立ちを説明。 保育について原理的に説明。 〈事前学習〉15回分の講義内容の確認。教科書P2～12を読んでおく（1.0時間） 〈事後学習〉授業内容をまとめ、復習する（1.0時間）
2	保育と子ども理解	〈学習内容〉 乳幼児の主な発達特徴を知り、子ども理解の原理・原則を学ぶ 〈事前学習〉教科書P25～36を下読み（1.0時間） 〈事後学習〉あなたにとって「大切な人」とはどんな人をテーマにレポートを書く次の授業時に提出（1.0時間）
3	保育の内容	〈学習内容〉 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育、保育要領の 国基準について説明する。 〈事前学習〉教科書P43～63を下読み（1.0時間） 〈事後学習〉授業の復習と教科書P42workをする（1.0時間）
4	保育の方法	〈学習内容〉子どもが中心となる保育の方法について述べ、 一人ひとり大切な子どもを理解する。 〈事前学習〉教科書P66～70を下読みする。（1.0時間） 〈事後学習〉絵本を読み、「子どもに伝えたい心」をレポートに書いて提出（1.0時間）
5	保育の計画と評価	〈学習内容〉保育計画のしくみと評価の重要性と臨機応変の大切さを説明する 〈事前学習〉4回目の授業で配布した保育計画をみておく（1.0時間） 〈事後学習〉月の指導計画をみて、保育者の子どもへの関りについて考える（1.0時間）
6	保育と子育て支援	〈学習内容〉学外学習：福岡市南区おおはしこどもプラザ なぜ、子育て支援なのか。 社会の背景に求められる子育て支援の実態を説明し、その実践を見る 〈事前学習〉教科書P97～100（時間） 〈事後学習〉「子育て支援について考える」をテーマに レポートの作成と提出（1.0時間）

7	保育者の専門性と資質の向上	〈学習内容〉 保育者の専門性に関する法的な位置づけについて理解し、説明することができるようにする。 保育者の職場環境の充実について映像をみて考える 〈事前学習〉 教科書P139～150の下読み (1.0時間) 〈事後学習〉 「私の保育観①」をテーマにレポートを作成・提出 (時間)
8	保育の歴史に学ぶ	〈学習内容〉 保育の思想と歴史的背景について オウエン、フレーベル、モンテッソーリー、マラグッツィ 〈事前学習〉 教科書P153～161を下読み (1.0時間) 〈事後学習〉 教科書P152のworkを考える (1.0時間)
9	多様な子どもの理解と保育	〈学習内容〉 外国籍の子どもの現状と多文化の受け入れを事例を通して配慮すべきことを口述 〈事前学習〉 教科書P177～192を下読み (1.0時間) 〈事後学習〉 自分だったらどのような言葉かけが嬉しいか考えてみる (1.0時間)
10	地域に開かれた保育	〈学習内容〉 学校、地域との連携の必要性を考える 地域との関わり方をエピソードを通して知り、 地域との連携の重要性を口述 〈事前学習〉 教科書P197～207の下読み (1.0時間) 〈事後学習〉 他にどのようなことができるか自分で発想してみる (1.0時間)
11	保育に関わる法律と制度	〈学習内容〉 保育に関連する法律や保育制度の基本について説明 〈事前学習〉 教科書P211～224の下読み (1.0時間) 〈事後学習〉 P210の「赤ちゃんの命と人生をどう守る」を読み考える (1.0時間)
12	保育の実際①	〈学習内容〉 学外授業：こどもの園純真 自分は何に関心があるのか考え、テーマをもって子どもを観察する 〈事前学習〉 こどもの園純真をインターネットで検索し、把握しておく (1.0時間) 〈事後学習〉 子どもの観察をレポートにまとめて、提出。 あなたは子どもの何に関心をもって観察したのか。 子ども理解につなげてみる (1.0時間)
13	保育の実際②	〈学習内容〉 子どもを観察し、考えたことを発表し、聞き手の質問に答える 〈事前学習〉 園見学で観察した子どもの姿や、 その姿から垣間見えた子どもの心などをまとめて記述しておく (1.0時間) 〈事後学習〉 発表者からみえた子どもの姿を、再度思い浮かべ、どのようなかわわりが 保育者に求められるか、多様なかわわり方を考えてみる。 (1.0時間)
14	保育者の専門性と課題	〈学習内容〉 子どもの発達支援、保護者の家庭支援、地域の子育て支援について 専門的知識や技術を高めしていくために、保育者として求められるものや 文部科学省や厚生労働省が検討している事柄などを説明 〈事前学習〉 教科書P226～239の下読み (1.0時間) 〈事後学習〉 「私の保育観②」をレポートにまとめ、提出 (時間)
15	私の保育観	〈学習内容〉 まとめ グループ討議で、保育原理を学んで身につけたことなどを 話し合う。 他人の意見をきき、自分の考えを言葉で表現する。 情報を得ることで気持ちを共感、共鳴し、心を豊かにして、 保育の専門性を高めていく 〈事前学習〉 過去14回の授業内容を振り返りまとめる (1.0時間) 〈事後学習〉 保育に対する考え方を確立していく。また、他の授業との結びつきを 深めてよりよい保育者を目指そうと思う気持ちを抱く (1.0時間)

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭福祉		菅原 亜紀	1	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE1203
		担当教員	菅原 亜紀				

幼	科 目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の本質・目的に関する科目					必修

【キーワード】		【概要】					
1	子どもの権利	子ども家庭福祉の基盤となる歴史、制度、施策、社会的対応などを学びます。 子どもの権利や子どもへの虐待を中心に、身近なところから子どもを取り巻くさまざまな課題について考えていきます。					
2	虐待						
3	児童福祉						
4	子ども						
5	家庭						

【到達目標】							
1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。							
2. 子ども家庭福祉の制度や、その現状と課題について理解できる。							
3. 子どもの権利擁護について自分の考えを整理し、保育者として何ができるのかを考えることができる。							

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							

【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							

【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○

【成績評価の方法】							
成績指標		定期試験		提出物および受講態度		合計	
評価割合（％）		60		40		100	

【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)	
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	

評語	評価の基準		
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。		
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。		
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。		
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 授業内でフィードバックを行う。定期試験に関しては、模範解答とコメントを学生に提示する。			
【教科書】 『子ども家庭福祉』／直島正樹・河野清志編著 萌文書林			
【参考書・参考資料等】 『子ども虐待』／西澤哲 講談社 『子どもの貧困』／阿部彩 岩波書店 その他、講義の中で紹介します。			
【関連科目】 「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」			
【受講心得】 全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること			
【備考】 卒業必修・保育士課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉とは		<学習内容>授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。子ども家庭福祉とはなにか、この授業ではどのようなことを学ぶのか、子どもとは？ということを考える。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目をおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2	子ども家庭福祉を取り巻く状況		<学習内容>子ども家庭福祉を取り巻く状況について考える。少子化や子どもを取り巻く福祉の問題などに焦点を当てて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3	子ども家庭福祉の歴史		<学習内容>子ども家庭福祉の歴史について、世界の歴史と日本の歴史を合わせて学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4	子ども家庭福祉の制度と法律		<学習内容>児童福祉法や子どもに関わる法律を中心に、子ども家庭福祉の制度と法律について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設		<学習内容>子ども家庭福祉にかかわる機関と施設について学ぶ。児童福祉施設の種別と役割やどのような専門職が働いているのか、児童相談所の援助についてなどを中心に学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

6	子育て支援 母子保健		<学習内容>少子化と子育て支援について、また、母子保健サービスについて学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
7	多様な保育ニーズへの対応		<学習内容>子ども家庭福祉にかかわる多様な保育ニーズと保育サービスについて学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
8	社会的養護		<学習内容>子どもにかかわるさまざまな問題の中で、社会的養護に焦点を当てて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
9	障害のある子どもへの対応		<学習内容>障害のある子どもへの対応、福祉について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
10	少年非行 外国籍の子どもとその家庭		<学習内容>少年非行の現状とどのような支援が行われているのか、外国籍の子どもとその家庭の現状や課題について考える。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
11	子どもの貧困		<学習内容>子どもの貧困の現状や子どもに与える影響などを考える。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
12	子どもの権利と虐待①		<学習内容>子どもの権利と虐待についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
13	子どもの権利と虐待②		<学習内容>子どもの権利と虐待についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
14	子どもの権利と虐待③		<学習内容>子どもの権利と虐待についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)

15	これからの子ども家庭福祉 まとめ		<学習内容>この授業をとおして学んだことのまとめとこれからの子ども家庭福祉について考える。 <事前学習>今までの授業のプリントなど振り返っておく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
16	試験		

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育者論			飯塚 恭一郎		1	前期	講義	必修	2
			担当形態	単独	ナンバリング			CE1205	
			担当教員	飯塚 恭一郎					

幼	科 目	教職の意義等に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容						
保	系 列	保育の本質・目的の理解に関する科目						必修

【キーワード】		【概要】							
1	保育者	・ 幼稚園、保育所、認定子ども園など保育者の職場について、関係法令や資料をもとに役割や特徴などの理解を深める。 ・ 保育者の仕事の内容や社会的な位置付け、処遇等について具体的な事例を基に学ぶ。 ・ 討議を通じて目指すべき保育者像を明らかにし、説明する。							
2	幼稚園								
3	保育所								
4	認定子ども園								
5	子育て支援								
【到達目標】									
1. 保育者の役割と仕事の内容および社会的な位置づけについて説明できる。									
2. 保育者の職場（幼稚園・保育所・認定子ども園など）について説明ができる。									
3. 自らが目指す保育者像を説明することができる。									
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】									関連性
【知識・理解・技能】									
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。									○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。									
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。									
【思考・判断・表現】									
1. 多面的な視点から問題を解決する対応策を考えることができる。									
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。									○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。									
【関心・意欲・態度】									
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。									○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。									
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。									
【成績評価の方法】									
成績指標		定期試験		課題・グループワーク		受講態度		合計	
評価割合（％）		30%		30%		40%		100	
【成績評価の基準】									
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下				
評語	S	A	B	C	E	F			
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）			
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0			
評語	評価の基準								
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。								
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が十分である。								
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。								
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。								

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題については授業内で正解回答を説明する。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】		
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『保育者論の探求』 森上史朗編著 ミネルヴァ書房 『子ども・子育て支援新制度 なるほどBOOK』 内閣府		
【関連科目】		
「教育原理」「保育原理」		
【受講心得】		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】		
卒業必修 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス	【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（1時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（3時間）
2	保育者の職場① －幼稚園(1)－	【学習内容】 幼稚園について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。 【事前学習】 幼稚園を含め日本の保育施設にはどのような施設があるか下調べをする。（1時間） 【事後学習】 調べ学習シートの設定以外にも幼稚園に関する解説や情報を収集する。（3時間）
3	保育者の職場② －幼稚園(2)－	【学習内容】 前回の授業で使用した幼稚園に関する調べ学習シートを元に各設問項目の詳細解説を聞き、幼稚園について学ぶ。 【事前学習】 調べ学習シートの記述内容を見直し、新たに入手した情報等があれば追加で記述しておく。（1時間） 【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、幼稚園についての理解を深める。（3時間）
4	保育者の職場③ －保育所(1)－	【学習内容】 保育所について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。 【事前学習】 保育所を含め子育て支援を担う施設や事業が現在どのくらい展開されているか下調べをする。（1時間） 【事後学習】 調べ学習シートの設定以外にも保育所に関する解説や情報を収集する。（3時間）

5	保育者の職場④ ー保育所(2)ー		【学習内容】 前回の授業で使用した保育所に関する調べ学習シートを元に各設問項目の詳細解説を聞き、保育所について学ぶ。 【事前学習】 調べ学習シートの記述内容を見直し、新たに入手した情報等があれば追加で記述しておく。(1時間) 【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、保育所についての理解を深める。(3時間)
6	保育者の職場⑤ ー認定こども園などー		【学習内容】 認定こども園を中心に子育て支援に関わる保育施設について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。また、その解説を聞き子育て支援に関わる保育施設について学ぶ。 【事前学習】 子ども子育て支援新制度の資料を入手して認定こども園を含め子育て支援に関わる施設とサービスの概要について概観しておく。(1時間) 【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、子育て支援に関わる施設についての理解を深める。(3時間)
7	保育者の位置づけ① ー免許資格・免許更新・研修制度ー		【学習内容】 保育者に必要な免許、資格、免許更新制度、研修制度など保育者の社会的地位を裏付ける制度等について調べ学習を通して学ぶ。 【事前学習】 あらかじめどのような免許や資格があるか調べをしておく。(1時間) 【事後学習】 調べ学習シートを含め授業内で配付された資料を整理、保存をして内容を熟読し、保育者必携の免許・資格について理解を深める。(3時間)
8	保育者の位置づけ② ー処遇・給与などー		【学習内容】 保育者の賃金の原資など、保育者の処遇に関わるお金の流れと仕組みについて学ぶ。 【事前学習】 昨今の保育者の処遇に関わる報道や制度の制定についてネット情報等も活用し下調べをする。(1時間) 【事後学習】 授業内で配付された資料を整理、保存をして内容を熟読し、保育者の処遇に関わるお金の流れと仕組みについて理解を深める。(3時間)
9	保育制度 ー子ども・子育て支援新制度を中心にー		【学習内容】 専用シートをもとにした調べ学習として「子ども・子育て新制度」について調べその仕組みと内容を学ぶ。 【事前学習】 第6回の授業内容の配付資料を読み返し、ここまで学んでいる「新制度」について概観しておく。(1時間) 【事後学習】 『子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK』の抜粋資料を整理する。そして授業内容のメモ・記録と併せて熟読し制度の理解を深める。(3時間)
10	保育者の心得① ー職員集団ー		【学習内容】 保育の仕事における保育者間の連携と協力、協同性、チームティーチングの重要性とその実際について学ぶ。 【事前学習】 授業内で紹介した保育現場の事例が掲載されている資料や文献をあたり、保育者の連携の実際を概観しておく。(1時間) 【事後学習】 配付されたプリント資料を整理し、保育現場の事例が掲載されている資料や文献とも併せて保育者間の連携、協同の重要性と教育的効果について理解を深める。(3時間)

11	保育者の心得② ー家庭との連携ー		【学習内容】 保育者の仕事における保護者や家庭との連携の重要性を学び、連絡帳等の具体的なツールや技術が必要であることを知る。 【事前学習】 自分自身が保育施設に通っているときの施設と保護者との連携がどのように行われていたか聞き取るなどして実際の事例を情報としてリサーチしておく。(1時間) 【事後学習】 配付されたプリント資料を整理し、その他にもどのような連携の在り方があるか、ネットを活用して調べるなどして、連携の実際について理解を深める。(3時間)
12	保育者の心得③ ー地域との連携ー		【学習内容】 保育施設が地域にとって保育と子育ての中心的役割を担っていることを学ぶ。 【事前学習】 自分自身の幼児期の経験を振り返るなどして、保育施設と地域との連携事例をイメージしておく。(1時間) 【事後学習】 配付されたプリント資料等をもとに、保育施設としての地域連携の在り方と保育者一人一人の仕事としての地域連携の方法を整理ながら理解を深める。(3時間)
13	目指す理想の保育者像① ーグループディスカッションー		【学習内容】 グループディスカッションを通して、「目指す理想の保育者の姿」を明らかにしていく。 【事前学習】 自分になりたい保育者のイメージと必要となる資質や人柄などを考察し整理しておく。(1時間) 【事後学習】 ポスター発表に向けて、「理想の保育者像」のイラスト表現と説明文のアイデアを練っておく。(3時間)
14	目指す理想の保育者像② ーポスター発表準備ー		【学習内容】 前回授業のグループディスカッションで明らかにした「理想の保育者像」を、グループメンバーと協同でイラストと仮説明文を使って発表ポスターに表現する。 【事前学習】 保育者像のイラストスケッチや説明文の下書きなどを準備する。(1時間) 【事後学習】 理想の保育者に近づくために、今後身に付けていくべき専門性や保育技術等には何があるか考察する。(3時間)
15	目指す理想の保育者像③と授業のまとめ ーポスター発表ー		【学習内容】 「理想の保育者像」のポスター発表を実施し、他者に自グループの考える保育者像を伝えと共に、他グループの考える理想像を見て、保育者の在り方を考察する。 【事前学習】 ポスター発表と同時に、捕捉の説明や質問があった場合の回答などをあらかじめ準備しておく。(1時間) 【事後学習】 自グループの保育者像と他グループのそれを比較するなどして、理想像に共通することがある一方、多様な価値と理想があることを知り、今後の学びに生かすことを考察する。(3時間)
16	定期試験		

【実務家教員】

フリガナ	イイツカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		

【実務経験】

幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。

【実務経験を生かした授業科目】

「保育者論」、「子どもと人間関係」、「保育・教育課程論」、「保育内容総論」、「保育・教職実践演習」

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必修	単位数
子どもの心理学		青沼 典子	1	前期	講義	必修	2
		担当形態	複数		ナンバリング		CE1206
		担当教員 青沼 典子（実務家）、畠中 智恵					

幼	科 目	教育の基礎的理解に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目		必修

【キーワード】		【概要】				
1乳幼児	幼児教育・保育の実践のためには、人間の生涯発達について理解し、乳児期、幼児期、児童期、青年期の運動、言語、認知、社会性の発達について具体的に理解していることが重要である。本授業では、まず子どもの心身の発達に関わる内的・外的要因、発達理論について学び、幼児教育・保育における発達理解の意義について学ぶ。その上で、乳幼児期の身体機能、運動機能、言語、認知、社会性の発達について、その過程や特徴について学び、子どもの援助について考える。					
2発達						
3子どもの学び						
4臨床的問題						
5保育観						
【到達目標】						
1. 子どもの心身の発達について説明できる。						
2. 乳幼児期から青年期における運動、言語、認知、社会性の発達について説明できる。						
3. 保育や子育てについて、子どもの発達に応じた対応ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○		
【成績評価の方法】						
成績指標		定期試験	受講への取組み（出席）	提出物	合計	
評価割合（％）		60	20	20	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。		
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。		
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。		
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 試験終了後、試験の講評及び解説を行う。			
【教科書】 『保育の心理学』青木紀久代編 みらい			
【参考書・参考資料等】 『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』無藤隆著／岩立京子編集 萌文書林 『よくわかる発達心理学[第2版]』無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編集 ミネルヴァ書房			
【関連科目】 「子ども理解の方法」「保育内容関連の科目」			
【受講心得】 自分の幼い時のことを振り返り、講義、演習と結びつけていく。 積極的に学ぶ姿勢で受講する。			
【備考】			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション・子どもの発達		<学習内容>授業の進め方の説明と、発達に関する要因など発達の基礎的知識を中心に説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第1章を読んでおく。（30分） <事後学習>子どもの発達に関する概要を復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
2	子どもの発達及び保育観の変遷		<学習内容>発達の考え方、子ども観、保育観の変遷について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第2章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
3	乳幼児期の社会情動的発達		<学習内容>乳幼児期に現れる情動の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第3章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
4	乳幼児期の身体の機能と運動の発達		<学習内容>身体機能と運動機能の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第4章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
5	乳幼児期の学習に関わる理論		<学習内容>乳幼児期に関わる学習理論を中心に説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第5章（第4節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）

6	乳幼児期の認知の発達		＜学習内容＞認知発達に関わる理論を、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第5章（第1～3節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
7	乳幼児期の言語・コミュニケーションの発達		＜学習内容＞乳幼児の言語の発達とコミュニケーションについて説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第6章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
8	子どもの発達と臨床的問題① 発達障害		＜学習内容＞子どもの障害（発達障害・知的障害）について説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第7章（第1～3節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
9	子どもの発達と臨床的問題② アセスメントと発達支援		＜学習内容＞子どもの障害把握やその評価方法について説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第7章（第4、5節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
10	乳幼児期の学びに関わる理論① 愛着		＜学習内容＞愛着理論を中心に、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第8章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
11	乳幼児期の学びに関わる理論② 遊び		＜学習内容＞子どもの遊びの有用性について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第9章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
12	乳幼児期の学びに関わる理論③ 遊びと心身の発達		＜学習内容＞子どもの遊びと心身の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第9章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
13	乳幼児期の学びを支える保育		＜学習内容＞子どもの発達における保育の役割について説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞事前に教科書の第11章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
14	児童期の運動、言語、認知、社会性の発達		＜学習内容＞児童期の運動や言語、認知、社会性の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞参考書などを読み、児童期の発達における専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）

15	青年期の運動、言語、認知、社会性の発達		＜学習内容＞青年期の運動や言語、認知、社会性の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。 ＜事前学習＞参考書などを読み、青年期の発達における専門用語の意味を理解しておく。（1時間） ＜事後学習＞授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）
16	定期試験		

【実務家教員】

フリガナ		アオスマ ノリコ		こども学科 教授
氏 名		青沼 典子		
実 務 経 験				
【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、 保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、 保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。				
【実務経験を生かした授業科目】 「教育実習指導」、「子どもと言葉」、「子どもの心理学」、「保育内容（言葉）」、「保育・教職実践演習」				

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの保健			楠野 雅子		1	前期	講義	選択	2
			担当形態	単独	ナンバリング			CE1209	
			担当教員	楠野 雅子					

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分 又は事項等				
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目			必修

【キーワード】		【概要】				
1	健康と保健	子どもの心身の健康と保健活動の意義。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 子どもの身体的発育及び運動機能の発達と保健。生理機能の発達と保健。 子どもの心身の健康観察・心身の不調等の早期発見・身体発育の評価・健康診断・保護者との 情報共有 子どもの主な疾病の特徴。子どもの疾病予防及び適切な対応。 地域における保健活動と子どもの虐待防止				
2	発育・発達と保健					
3	心身の健康					
4	疾病予防					
5	虐待防止					
【到達目標】						
1. 子どもの身体的な発育・発達と保健について学習し、子どもの心身の健康保持・増進を図る保健活動の意義を理解する						
2. 子どもの心身の健康観察とその把握の方法について理解する						
3. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○		
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標		定期試験	受講態度	提出物	合計	
評価割合（％）		70	20	10	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
課題レポートは、コメントを返却するので、確認して返答すること。		
【教科書】		
『子どもの保健・実習』兼松百合子編 同文書院		
【参考書・参考資料等】		
『保育所における感染症対策ガイドライン』『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省 『実践保育学』帆足 英一監修 日本小児医事出版 『子どもの保健Ⅰ・Ⅱ』ななみ書房 『子どもの保健・実習』兼松百合子編 同文書院 『子どもの保健』学健書院 『病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症』メデックメディア 『発達がわかれば子どもがみえる』田中真介		
【関連科目】		
『子どもの健康と安全』		
【受講心得】		
子どもが健康で安全な保育生活を過ごせるように、子どもの心身の健康保持・増進に必要な知識・技術の習得に努めてほしい		
【備考】		
保育士課程必修		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	子どもの心身の健康と保健の意義	＜学習内容＞初回講義のため、講義要項（シラバス）について。子どもの保健と健康保健活動の意義と目的、子どもの出生と母子保健の意義、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題＜事前学習＞事前に講義要項に目を通していただく＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
2	子どもの発達と保健 ①身体発育及び運動機能の発達と保健	＜学習内容＞①こどもの身体発育と運動機能の発達。乳幼児の身体計測の仕方、標準的な子どもの身体発育、発育の評価の仕方、身体発育に影響を与える因子、子どもの運動発達＜事前学習＞該当ページに目を通していただく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習。乳幼児の計測・記録・評価の仕方（身長・体重計測。パーセントイル曲線に記録）（1時間）
3	子どもの発達と保健 ②生理機能の発達と保健	＜学習内容＞②子どもの生理機能の発達と生活習慣。子どもと大人の生理機能の違い。子どもの生理機能の評価の仕方。生理機能の発達に応じた生活習慣について＜事前学習＞該当ページに目を通していただく（1時間）＜事後学習＞子どもの生理機能について講義内容の復習。（発達に応じた体調の変化に気づき、排泄習慣と睡眠習慣など生活リズムを作る）（1時間）
4	地域における保健活動と子どもの虐待防止	＜学習内容＞地域における保健活動。子どもの虐待の現状、虐待の実態・対応。虐待防止への取り組み。＜事前学習＞該当ページに目を通していただく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習。地域の子育て支援の様々な取り組みと関係機関の連携で、子どもの虐待防止を行う必要性（1時間）
5	子どもの心身の健康状態とその把握 ①健康状態の観察 ②心身の不調時の早期発見	＜学習内容＞子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握。体調不良時の主な症状とその評価、対応について ＜事前学習＞テキスト該当ページ、感染症ガイドラインに目を通していただく（1時間） ＜事後学習＞健康状態の観察。心身の不調時の早期発見。発熱・嘔吐・下痢・咳などの対応。（1時間）
6	子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴	＜学習内容＞子どもの病気①子どもの免疫の発達と感染症の特徴。主な感染症と感染経路。子どものかかりやすい感染症 ＜事前学習＞テキスト該当ページ、感染症ガイドラインに目を通していただく（1時間） ＜事後学習＞感染症について。子どもの主な感染症。講義内容の復習（1時間）

7	子どもの病気 ②感染症の予防及び適切な対応		＜学習内容＞感染経路と対策、学校感染症、予防接種、母子感染予防＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞感染症経路、医師の意見書が必要な感染症（出席停止期間の基準）、予防接種。講義内容の復習（1時間）
8	子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応		＜学習内容＞重篤な状態の判断と対応、事故やけがの時の特徴と対応、急性疾患による緊急対応＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞子どもの急性疾患の救急対応、子どもの心配蘇生法。講義内容の復習（1時間）
9	子どもの病気 ④先天性の病気の特徴と対応		＜学習内容＞新生児の病気・先天性の病気の特徴と対応＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
10	子どもの病気 ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（1）		＜学習内容＞アレルギー疾患に関する基本的な知識と、保育所における対応の基本原則＜事前学習＞資料・テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習。主なアレルギー疾患について（食物アレルギー・アナフィラキシー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性結膜炎・アレルギー性鼻炎）
11	子どもの病気 ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（2）		＜学習内容＞食物アレルギーの対応。保育所におけるアレルギー疾患生活管理表に基づく対応＜事前学習＞資料・テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習。生活管理指導法に基づく対応（食物アレルギー・アナフィラキシー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性結膜炎・アレルギー性鼻炎）（1時間）
12	子どもの病気 ⑥慢性疾患の特徴と適切な対応		＜学習内容＞慢性疾患の特徴と適切な対応＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
13	保護者との情報共有と家族の支援		＜学習内容＞集団生活前健診（入所時健診、入園時健診）、保護者との健康情報の共有、子どもの家族支援、子育て支援＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）個別な配慮が必要な子どもには、必要な支援も含めて保護者と保育者で情報共有。関係機関との連携し、きめ細かな支援の必要性
14	子どもの健康診断と関連機関との連携		＜学習内容＞子どもに関する健診の内容と意義。健診を通じた関係機関との連携の実際と意義。健診を通じた子育て支援。＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
15	まとめ		＜学習内容＞重要な項目。＜事前学習＞子どもの健康状態の観察と体調不良時の適切な対応、感染症、アレルギー疾患など（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの食と栄養Ⅰ		宅間 真佐代		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE1210	
		担当教員	宅間 真佐代					

幼	科 目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目						必修

【キーワード】		【概要】						
1	栄養	子どもの食生活は、生涯の健康と生活の基盤であり、その後の心と身体の健康に大きな影響を及ぼす。健全な発育・成長を促すために必要な栄養及び食生活に関して学ぶとともに各発達段階の生理的変化についても理解する。また、栄養に関する基本的事項について理解を深める。						
2	食生活							
3	発育							
4	発達							
5	健康							
【到達目標】								
1. 栄養の基礎知識について理解し説明できる。								
2. 子どもたちの成長・発達に適した栄養について理解し説明できる。								
3. 子どもの食事指導を行うための実践的な知識及び技術を理解し実践できる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子ども的心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標		定期試験の成績			受講態度等			合計
評価割合（％）		85			15			100
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準		
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。		
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。		
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。		
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 試験終了後、模範解答を配付するので確認すること。			
【教科書】 『子どもの食と栄養』 林俊郎編著 一藝社 『子どもの食と栄養』 高内正子監修 保育出版社			
【参考書・参考資料等】 参考書：『子どもの食と栄養』 堤ちはる・土井正子編著 萌文書林 参考資料：『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』、『保育所における食事提供のガイドライン』			
【関連科目】 『子どもと保健』『乳児保育』『子どもの心理学』『保育内容全般』『障害児保育』等			
【受講心得】 遅刻、欠席をしない。積極的な学習及び態度で臨む。理論と実習を通して、子どもの食と栄養についての理解を深めて欲しい。			
【備考】 保育士必修科目 理解度に応じて学習内容の変更を行う場合がある。			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	子どもの健康と食生活の現状		<学習内容>子どもの健康と食生活の現状について説明する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
2	栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
3	栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
4	栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
5	栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。

6	栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。また、食事摂取基準と献立作成・調理の基本について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
7	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。 <事前学習>講義の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
8	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
9	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
10	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
11	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
12	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
13	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
14	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。

15	子どもの発育・発達と食生活		<学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間) <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間) 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
16	試験		

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと人間関係		飯塚 恭一郎	1	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE1214
		担当教員	飯塚 恭一郎				
幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目					必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	領域に関する専門的事項					
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目					必修

【キーワード】		【概要】				
1 保育内容	・ 保育内容5領域および「人間関係」領域について、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に準拠して理解を深める。 ・ 保育における「生活」と「遊び」の背景にある人とかかわりと、子どもの発達や育ちの関係について学ぶ。 ・ 大人との愛着関係や信頼関係をはじめ、子ども同士や集団との関係性など保育現場に見るさまざまな人とかかわりのあり方を、事例をもとにして理解していく。					
2 人間関係						
3 信頼関係						
4 個と集団						
5 相互理解						
【授業のテーマ及び到達目標】						
1. 保育内容5領域と人間関係領域について、ねらいや内容の意味するところや領域の視点から子どもの育ちを見ることができる。						
2. 子どもの生活と遊びをささえる周囲の人とかかわりの重要性とそれによって保証される子どもの育ちの姿をイメージすることができる。						
3. 保育の中で、子どもが多種多様な人々とかかわり、個人と集団の関係性を成立させる社会規範について学んでいくことの重要性を説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計		
評価割合（％）	20%	40%	40%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。					
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が十分である。					
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。					
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】		
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著（嵯峨野書院）		
【関連科目】		
「保育内容（人間関係）」「保育原理」「保育内容総論」		
【受講心得】		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】		担当
1	授業ガイダンス／保育内容5領域とは	
		【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。併せて「保育内容5領域」の概要について学ぶ。 【事前学習】 事前にシラバスと『幼稚園教育要領解説』等に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）
2	5領域と「人間関係」領域①	【学習内容】 小学校の『学習指導要領』などとの比較を通して、「保育内容」と「領域」の根本的な理念を学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に、「保育内容のねらいと内容」の説明がある箇所を目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 配布資料と『幼稚園教育要領』第2章を合わせて熟読し、「保育内容」と「領域」の根本的な理念の理解に努める。（1時間）
3	5領域と「人間関係」領域②	【学習内容】 保育内容5領域がしめす「ねらい」が表す「心情」「意欲」「態度」の意味を学ぶ。併せて「人間関係領域」にフォーカスしてその保育内容のねらいについて学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に目を通し、各領域のねらいと「人間関係領域」について概観しておく。（0.5時間） 【事後学習】 配布プリント資料を読み返し、保育内容5領域の「心情」「意欲」「態度」について理解を深める。（1時間）
4	生活と遊びを通して生まれるかかわり	【学習内容】 就学前教育の根幹をなす「生活」と「遊び」について、その目指すところ知り、その生活と遊びを成り立たせうる保育施設の環境を構成する「人間関係」について学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第1節と第2章「人間関係領域」を中心に目を通し、幼児期にふさわしい生活と遊びを通した総合的な指導の意味と人間環境域の内容について概観しておく。（0.5時間） 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、環境を構成する「人間関係」の意味について理解を深める。（1時間）

5	大人とのかかわりー信頼関係構築①ー	【学習内容】 子どもと保育者との一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子どもと保育者との一対一の関係性について理解を深める。(1時間)
6	大人とのかかわりー信頼関係構築②ー	【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する子どもの心情について映像教材をもとにしながら考察をする。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)や前回授業の読解シートに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における子どもの心情について理解を深める。(1時間)
7	大人とのかかわりー信頼関係構築③ー	【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する保育者の心情と保育のねらいについて映像教材をもとにしながら考察をする。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における保育者の思いと保育の配慮について理解を深める。(1時間)
8	子ども同士のかかわりー個と個①ー	【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)、(5)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子ども同士の一対一の関係性について理解を深める。(1時間)
9	子ども同士のかかわりー個と個②ー	【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係のなかにある個々の子どもの心情・思いについて、映像教材をもとにしながら考察をする。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)、(5)や前回授業の読解シートに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係性のなかにある個々の子どもの心情・思いについて理解を深める。(1時間)

1 0	子ども同士のかかわりー個と個③ー	【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)、(5)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について理解を深める。(1時間)
1 1	集団の中でのかかわりー個と集団①ー	【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について、映像教材をもとにしながら考察をする。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)、(8)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について理解を深める。(1時間)
1 2	集団の中でのかかわりー個と集団②ー	【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)、(8)や内容の取扱い(2)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について理解を深める。(1時間)
1 3	多様な人とかかわりー気になる子どもなどー	【学習内容】 いわゆる「気になる子ども」や異文化、多様な価値観を持った子どもとの関わりについて、保育事例をもとに学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)などにあらかじめ目を通したり、様々な育ちの背景を持った友達と関わった自分自身の経験を振り返ったりしておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、様々な育ちの背景を持った友達との関わりについて理解を深める。(1時間)
1 4	地域とかかわりー学びの連続性ー	【学習内容】 高齢者や小学校など、学びの連続性も視野に入れた地域との関わりについて学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(13)や内容の取扱い(6)などにあらかじめ目を通すなどして、地域との関わりについて概観しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、地域との関わりと「学びの連続性」概念について理解を深める。(1時間)

1 5	授業の振り返りとまとめ		【学習内容】 授業内容を振り返り、園生活における様々な人間関係について、一対一の関係を基本にして、人の心情理解が重要であることを再確認する。 【事前学習】 授業内で配布されたプリント資料や『幼稚園教育要領解説』の人間関係領域箇所を再読しておく。（0.5時間） 【事後学習】 様々な人間関係における心情理解の重要性について、配布プリント資料等を整理、保存するなかで、再確認をしておく。（1時間）
1 6	定期試験		

【実務家教員】

フリガナ	イイツカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「保育者論」、「子どもと人間関係」、「保育・教育課程論」、「保育内容総論」、「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと言葉		青沼 典子		1	前期	演習	必修	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE1215	
		担当教員	青沼 典子（実務家）					

幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】		【概要】	
1	コミュニケーション	子どもの言語の獲得や発達過程について基礎的な知識を学習し、子どもの事例から理解を深めていく。保育技術の習得と、向上を目指し、グループでの制作活動や、保育実践を想定した演習を行う。絵本の読み聞かせの基本を学び、保育者としての実践力を付けていく	
2	児童文化		
3	絵本		
4	文字		
5	表現		

【到達目標】	
1. 子どもの言語の獲得や発達過程を学習し、子どもへの理解を深めていく	
2. 子どもの年齢に応じた様々な児童文化財を知り、実践演習による保育技術の習得向上を目指す。	
3. 絵本の読み聞かせ簾の基本を学び、保育者としての実践力を付けていく	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験	提出物、課題	演習、受講態度	合計
評価割合（％）	40	30	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	講義、演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題、提出物の内容が十分である。		
A	講義、演習の目的を理解して、課題に取り組む姿があり、課題、提出物の内容がおおむね十分である。		
B	講義、演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題、提出物の内容が本人の力量相応である。		
C	講義、演習課題に取り組む姿はあるが、課題、提出物が最低限の内容に留まっている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 小テスト等は模範解答及びコメントを返却する。解説を開き、やり直しをして確実に理解をすること。			
【教科書】 『事例で学ぶ保育内容、領域 言葉』 萌文書林			
【参考書・参考資料等】 『保育と絵本』 エイデル研究所			
【関連科目】 保育内容全般 「子どもの心理学」			
【受講心得】 児童文化財について、日頃より幅広く親しむ グループ活動には積極的に参加すること。 子どもに関する情報に関心を持つ。			
【備考】 幼稚園教諭必修科目			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 子どもの言葉の発達		【学習内容】今からの学習についての見通しを持たせる。人にとって言葉はどのような働きをするのか？言葉を持つことはどのような意味を持っているのか、言葉のコミュニケーションについて基本的な事を考える。 （事前学習）シラバスをみて、今後の学習についての見通しを持つ。（30分） （事後学習）授業後、言葉について感じたことをまとめ、感想を書く（30分）
2	言葉獲得の道筋①親子の関わり		【学習内容】生まれてからどのように言葉を獲得していくかを、自身や、周りの子どもに置き換え、身近なところから実感させながら学習を進める。感想を書く （事前学習）テキストの指定された章を読んでくる。どのような内容かを把握しておく。（30 分） （事後学習）、きょうの内容をまとめる。言葉の例を考え、ノートする。（30分）
3	子どもの言葉の発達の道筋② 関りの広がり		【学習内容】言葉を獲得していく道筋をたどる。2歳までが最も獲得の著しい大事な時期なので、表や例を用いて理解させる。子どもにとっての絵本の持つ意味を学習する。実際に子どもの好きな本を手にとって見る。感想を書く。 （事前学習）前回の内容を振り返り見ておく、テキストの指定されたページを読んでおく。30分 （事後学習）、振り返りとまとめ（30分）
4	乳幼児の言葉と絵本		【学習内容】小テストで言葉獲得の道筋の理解を図る。絵本の基本についての学習。絵本が子どもの成長、言葉、感性にどのように働きかけるのか？絵本の基本について学ぶ。感想を書く。 （事前学習）言葉の獲得について（30分） （事後学習）乳児の絵本を探し、読んでみる（30分）
5	年齢ごとの子どもの姿と言葉①		【学習内容】小テストを配り、解説をする。間違ったところに書き加えをする。0、1、2の本を用意しておき5～6人のグループで読み合わせをする。読み方や感想などをかかせ、こども目線を考える。 （事前学習）指定されたテキストの章を読んでおく。（30分） （事後学習）小テストのまとめ、大事なところを確実に理解する。（30分）

6	年齢ごとの子どもの姿と言葉②		【学習内容】図書館に行き、子どもの本のコーナーを知る。3歳未満児、3歳以上児の本を〇冊ずつえらび読んで、あらすじ、感想を書く。そのことで、少しでも絵本に触れ、えほんをする。こども目線に立ち、どんな本が喜ぶのか考えてみる機会とする。 (事前学習) 図書館の場所本の位置を調べておく(30分) (事後学習) レポートを書く (30分)
7	感性を育む保育活動（絵本と体験）①		【学習内容】子どもの言葉の発達に欠かせない児童文化について知る。幼児の好きなてあそびを実際に行ってみる。グループで1個ずつ探させ、グループごとにやってみる。 (事前学習) 指定されたテキストの章を読んでくる。(30分) (事後学習) てあそびについて調べる (1時間)
8	感性を育む保育活動（絵本と体験）②		【学習内容】グループに分かれ、その中で一人づつ絵本を読み聞かせ実践する。それぞれのいいところ、もう少しの所をレポートする。 (事前学習) 絵本調べ (30分) (事後学習) てあそび復習 (30分)
9	感性を育む保育活動（読み聞かせの実際）①		【学習内容】読み聞かせ振り返り、絵本の読み聞かせのポイント (事前学習) 指定されたテキストの章を読む (30分) (事後学習) 読み聞かせの練習 (30分)
10	感性を育む保育活動（読み聞かせの実際）②		【学習内容】グループで何をするか、考え、出し合う。必要な物、計画などを話し合い、出来るところかあ取り掛かる。 (事前学習) 保育園の園児にしてあげたいことを考えて調べてくる (30分) (事後学習)、来週にむけてのとりかかりや材料等をグループで確認しあう、感想や反省をレポートする (1時間)
11	作って遊ぼう（絵本からの展開）①		【学習内容】各グループで企画したことを進める。練習まで出来るように。 (事前学習) 材料、道具などを前もって準備 (30分) (事後学習) 感想、反省、次回へのつなぎを書く (30分)
12	作って遊ぼう（絵本からの展開）②		【学習内容】すぐに練習にとりかかる。時間を決めてクラス全員の前で実践できるように練習する。各グループの実践の感想を伝え合い、保育園での発表に繋げる。 (事前学習) グループごとに準備をしておく (30分) (事後学習) 準備の確認。練習 (1時間)
13	発表（保育園）		【学習内容】保育園で実践する、子どもたち楽しい時間になるように何が大切かを各自考えさせる。練習してきたことを実践する。 (事前学習) 練習。(30分) (事後学習) 感想、反省を書き、次につないでいけるようにする。(30分)
14	実践の振り返り・フィードバック、その他の児童文化財		【学習内容】グループごとに実践したことの反省等、発表する。保育園からの感想や助言等をフィードバックする。子どもの前で実践し、こどものすがたを知ることの大切さを理解する。 (事前学習) 反省や感想のまとめ。 (事後学習) 全体の感想を書く (30分)

15	ことば遊び、子どもと言葉まとめ・解説		【学習内容】子どもと言葉で学んだことを振り返り、大切な個所を確認する。まとめの資料を解説する。 (事前学習) テキストの指定された章を読んでくる。 (1時間) (事後学習) 全体を振り返りまとめの学習をする (1時間)
16	定期テスト		

【実務家教員】

フリガナ	アオスマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「教育実習指導」、「子どもと言葉」、「子どもの心理学」、「保育内容（言葉）」、「保育・教職実践演習」		

科目名			担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと表現			平嶋 一臣	1	前期	演習	選択	1
			担当形態	オムニバス		ナンバリング	CE2315	
			担当教員	平嶋一臣・難波章人・豊辻晴香・谷川裕子				

幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】		【概要】				
1	表現力	「保育内容 表現」における知識、技能を理解し、現場における活動を具体的に学ぶ。子どもにおける表現活動は、五感を通してイメージを持ち、それを表現していく力と創作していく力を引き出していくことにある。そこで、本授業においてはまず各表現活動の特性を理解し、学生自らが表現力を高め、次に子どもの発達に基づいた活動内容を提供することができるようにする。さらにグループ活動により各表現教材を総合的な表現に結びつける創作活動を行う。				
2	五感					
3	イメージ					
4	創作					
5	発達					
【到達目標】						
1. 保育内容「表現」を理解できる。						
2. 各表現活動において表現方法を具体的に実践できる。						
3. 造形表現、音楽表現、身体表現活動を関連づけ統合的に表現することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】各表現活動における						
成績指標		受講態度等	発表活動	各表現活動における課題	合計	
評価割合（％）		50	30	20	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語		評価の基準	
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。		
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。		
B	取り組み内容を理解しているが、課題・提出物の内容が不十分である。		
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
課題提出後、コメントを返却するので確認して返答すること。			
【教科書】			
『コンパクト版・保育内容シリーズ 造形表現』（編）竹井史 一藝社			
【参考書・参考資料等】			
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）			
【関連科目】			
「保育内容（造形表現）」「子どもと健康」「保育内容（健康）」「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」 「音楽表現Ⅲ」「音楽表現Ⅳ」「保育内容（音楽表現）」「感性学」			
【受講心得】			
表現活動であるため、他者との比較ではなく自分なりの表現を楽しむ心がける。また他者の表現方法を理解し、自分の表現に生かせるように学ぶ。			
【備考】			
保育士課程必修、幼稚園教諭必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（表現とは）	全教員	＜学習内容＞乳幼児の表現と発達段階による表現の違いについて説明する。オムニバス授業全体の流れを説明する。 ＜事前学習＞事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） ＜事後学習＞各表現について考えてみる。（0.5時間）
2	表現活動（造形表現のねらい及び内容）	難波	＜学習内容＞教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を踏まえた保育における造形表現のねらい及び内容について説明する。 ＜事前学習＞材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
3	表現活動（クレパスの描画表現）	難波	＜学習内容＞クレパスの特性を踏まえた題材について学習する。また、絵あそびの活動時の声掛けについて説明する。 ＜事前学習＞材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
4	表現活動（合わせ絵などの遊びと表現）	難波	＜学習内容＞モダンテクニックを使った絵あそびの技法と表現について説明する。 ＜事前学習＞材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）

5	表現活動（粘土遊びと表現）	難波	<学習内容>粘土の特性を活かした遊びと可塑性を活かした表現について学ぶ。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
6	表現活動（ローラー遊びと表現）	難波	<学習内容>ローラーを使った絵あそびと版あそびへの展開を学ぶ。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
7	表現活動（自然物を用いた表現）	難波	<学習内容>葉っぱや木の枝、または、石など私たちの身の回りにある自然物を使って表現することのねらいとその技法について説明する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
8	表現活動（総合的な表現について）	難波	<学習内容>造形活動での材料・素材は多様であり、身近に存在することについて解説する。また、様々な材料を組み合わせていく方法を説明する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
9	表現活動（象形文字によるイメージ作り①）	平嶋	<学習内容>象形文字の持つ豊かな表情を、幼児期の表現活動に活かす。ここでは、その一つとして、書表現の方法を各グループ（6名程度）で考え、テーマを決め大画仙紙に製作する。 <事前学習>あらかじめ配布された象形文字カードについて、個々の文字の現代読み・意味・歴史的背景を調べておく。（1時間） <事後学習>次時の個人制作に向けて、『象形文字を組み合わせて創る世界に一つだけの物語』の構想を練っておく。（1時間）
10	表現活動（象形文字によるイメージ作り②）	平嶋	<学習内容>幼児向け『象形文字を組み合わせて創る世界に一つだけの物語』を創り、その物語を効果的に表現できるよう、三分の一画仙紙に文字を配置・表現した墨象作品を創る（乾燥後裏面から着色）。 <事前学習>象形文字カードを基に、それを組み合わせた自作の物語を考えておく。（1時間） <事後学習>自作の物語にふさわしい題名と物語（200字～300字）をA5版サイズにパソコンで打ち作品下部に貼付する。（1時間）
11	表現活動（音楽表現）	豊辻	<学習内容>保育領域「表現（音楽）」の活動を体験し、そのねらい及び内容について理解する。 <事前学習>教育要領や保育所指針等の表現領域について読み込んでおく。（1時間） <事後学習>授業での経験や学びを書き留め、まとめておく。（1時間）

12	表現活動（身体表現）	谷川	<学習内容>絵本からイメージした世界を身体で表現することを学ぶ。 <事前学習>子どものごっこ遊びや物を使ってイメージする遊びを調べておく。（0.5時間） <事後学習>学んだ表現方法を記述しておく。（1時間）
13	表現発表	全教員	<学習内容>いくつかの分野で学んだことを踏まえて表現発表を行う。 <事前学習>発表準備（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
14	表現発表	全教員	<学習内容>いくつかの分野で学んだことを踏まえて表現発表を行う。 <事前学習>発表準備（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
15	まとめ	全教員	<学習内容>各表現を整理してノートにまとめる。 <事前学習>すべての授業の振り返りを行っておく（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
16			

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
乳児保育Ⅰ			砥上 あゆみ		1	前期	講義	選択	2
			担当形態	単独	ナンバリング			CE1217	
			担当教員	砥上 あゆみ					

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分又は事項等				
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目			必修

【キーワード】		【概要】				
1	養護	・乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および乳児保育の必要性について学び、保育者の役割について考えていく。 ・3歳未満児の発育、発達の基礎的な知識に基づいた保育内容、保育者のかかわりや援助について学ぶ。 ・乳児保育における計画・記録・評価とその意義や保護者、地域、自治体等との連携、協働についても知識を習得する。				
2	教育					
3	発達過程					
4	遊び					
5	指導計画					
【到達目標】						
1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および乳児保育の役割と機能を理解できる。						
2. 3歳未満児の発育と発達をふまえた保育内容、環境構成等を考えることができる。						
3. 保護者、職員間、自治体等との連携・協働関係について説明することできる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○		
【成績評価の方法】						
成績指標		試験	課題提出	受講態度	合計	
評価割合（％）		40%	20%	40%	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 提出された課題等については、返却を行い、要点を確認する。		
【教科書】 『資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 今井和子監修『育ちの理解と指導計画【改訂版】』小学館 無藤隆・大豆生田啓友編著『0.1.2歳児の子どもの姿ベースの指導計画』フレーベル館		
【関連科目】 「子どもの心理学」「子どもの保健」		
【受講心得】 専門職を目指すという心がまえをもち、積極的に授業に参加すること。 事前事後学習に取り組み、課題等は必ず提出し、内容理解に努めるこ		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】		担当 学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	乳児保育の歴史の変遷および役割と機能	授業概要や到達目標の説明を行う。また、乳児保育の歴史の変遷や理念にふれ、求められる役割や機能について考えていく。 事前学習（0.5時間） シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2	乳児保育の意義・目的と必要とされる社会的状況	保育所保育指針の改定にふれ、乳児保育の基本的事項や意義・目的について学ぶ。また、生涯発達からみた乳児の時期の特徴にふれ、保育士としてのかかわりの大切さを考える。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3	0歳児の発達の特徴と保育（1）	0歳前半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4	0歳児の発達の特徴と保育（2）	0歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読してくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5	1歳児の発達の特徴と保育（1）	1歳前半の発達過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6	1歳児の発達の特徴と保育（2）	1歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

7	2歳児の発達の特徴と保育 (1)	2歳前半の発達の過程と発達の特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8	2歳児の発達の特徴と保育 (2)	2歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を押さえておく。
9	3歳児の発達の特徴と保育	3歳児の発達の過程と発達の特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
10	乳児保育の内容と方法 (1)	乳児保育の内容や方法について、基本的生活を中心にみていく。1日の流れや衛生面や安全面に配慮された生活環境について理解を深める。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
11	乳児保育の内容と方法 (2)	乳児保育の内容や方法について、子どもの発達に応じたあそびについて理解を深める。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
12	乳児保育の内容と方法 (3)	子どもの発達をみる視点や子ども理解等、保育の実践の中で大切にしたいことについて考えていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
13	多様な場における乳児保育の現状と課題	多様な場における乳児保育の現状と課題について学ぶ 事前学習 (0.5時間) 課題について、調べておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
14	乳児保育における連携・協働	乳児保育において、職員間が連携する意義や保護者との連携の大切さ、また、自治体や地域ともどのような連携が必要とされているのかを考える。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
15	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	乳児保育における計画・記録・評価の基本的事項を知り、保育の現場でどのような記録があり、活かされているのかを理解する。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
16	定期試験	

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅰ		飯塚恭一郎	1・2	通年	演習	選択	2
		担当形態	複数		ナンバリング		CE1219
		担当教員	保育所担当：飯塚恭一郎 豊辻晴香 砥上あゆみ 島中智恵 施設担当：菅原亜紀 古野愛子				

幼	科 目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系 列	保育実習		必修

【キーワード】		【概要】				
1	保育所	・ 保育実習の事前指導として学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行う。 ・ 実習生としての心得に始まり、保育所実習および施設実習に関わる観察法、記録や指導計画等の記述法、遊びや指導の技術等、実習に求められる基本的な知識と技能を学ぶ。 ・ 実習終了後に実習の振り返りと総括、自己評価を行い、自らの今後の課題を明らかにして学習目標を持つ。				
2	施設					
3	保育実習					
4	記録					
5	指導計画					
【到達目標】						
1. 保育実習の意義、目的、内容を理解し、自らの実習の課題を明確にできる。 2. 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性			
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○			
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○			
【成績評価の方法】						
成績指標		演習への取り組みの姿勢・受講態度	課題・提出物等	合計		
評価割合（％）		60%	40%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が十分である。					
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿があり、課題・提出物の内容がおおむね十分である。					
B	演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が本人の力量相応である。					
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。				
【教科書】			純真短大こども学科『実習のてびき』および各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。				
【参考書・参考資料等】			『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
【関連科目】			「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」および「保育実習指導Ⅲ」				
【受講心得】			遅刻、欠席の回数や受講態度、提出物の遅れなどが重なった場合は、実習中止の判断をする場合がある。				
【備考】			保育士課程必修 なお、状況により学習進行や順番が変わる場合がある。				
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）				
1	保育所実習の意義・目的・概要		保育所担当教員	【学習内容】 保育所実習の概要とその意義、目的について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）			
2	実習の内容と課題、留意事項について		保育所担当教員	【学習内容】 保育所実習の具体的な内容や留意すべきことについて学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）			
3	乳幼児の発達の理解		保育所担当教員	【学習内容】 視聴覚教材や保育課程等を参照し乳幼児の発達を基盤とした保育所の生活について学ぶ。 【事前学習】 他授業の乳幼児の発達に関わる資料等を参照するなどして発達の概要を押さえておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て乳幼児の発達についての理解を深める。（0.5時間）			
4	子どもの人権と最善の利益の考慮について		保育所担当教員	【学習内容】 「乳幼児倫理綱領」「子どもの権利条約」等子どもの人権尊重と保育の仕事について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て子どもの人権を尊重する保育者の役割と仕事について学びを深める。（0.5時間）			
5	実習生としての心構え		保育所担当教員	【学習内容】 実習生あるいは社会人として子どもの前に立つことを前提にした心構えについて学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て日々の自分の立ち居振る舞い等を見直す。（0.5時間）			

6	観察実習・参加実習・指導実習について	保育所 担当 教員	【学習内容】 「観察実習」「参加実習」といった実習の段階があることを学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間) 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て各実習の段階の違いとそこでの学びの違いについて理解を深める。(0.5時間)
7	実習の課題の明確化	保育所 担当 教員	【学習内容】 日々の実習において、その日の「学びの課題」を設定し実習に取り組むことの重要性を学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間) 【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目的について理解を深める。(0.5時間)
8	実習における観察、記録および評価について	保育所 担当 教員	【学習内容】 実習内容や観察内容の「記録」の必要性和ツールとしての「日誌」の役割と記述方法を学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日誌記述のサンプルページを中心に目を通し、記録と日誌についてイメージをしておく。(0.5時間) 【事後学習】 「実習のてびき」以外の記録と実習日誌に関する資料やテキストをリサーチし、日誌記述の具体例の情報収集をする。(0.5時間)
9	部分指導案の作成	保育所 担当 教員	【学習内容】 指導計画を立てることの意義を知り、部分指導案の記述方法を学ぶ。 【事前学習】 具体的な保育内容をイメージしてその流れを言語化するシミュレーションをする。(0.5時間) 【事後学習】 授業内で配布された部分指導案のサンプル資料と授業内容の記録メモをもとに、指導案に描写すべき内容と記述方法の理解を深める。(0.5時間)
10	保育技術の習得①	保育所 担当 教員	【学習内容】 「手遊び」を中心にロールプレイ演習に取り組み基本的な遊びの技術を学ぶ。 【事前学習】 他授業のテキストや保育雑誌等を参照して具体的な手遊びを練習しておく。(0.5時間) 【事後学習】 授業内で配布されたプリント資料や授業内容の記録メモ、記憶を頼りに手遊びの練習を繰り返す。(0.5時間)
11	保育技術の習得②	保育所 担当 教員	【学習内容】 「絵本の読み聞かせ」を中心に、年齢に適した絵本の選び方とロールプレイ演習で絵本の読み聞かせの技術を体験的に学ぶ。 【事前学習】 図書館等で乳幼児向けの絵本を見るなど絵本について下調べをしておく。(0.5時間) 【事後学習】 年齢に適した絵本を再度熟読し、声に出して読み聞かせの練習をする。(0.5時間)

12	提出書類の作成	保育所 担当 教員	【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。 【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理、保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)
13	実習の振り返りと自己評価①	保育所 担当 教員	【学習内容】 保育実習Ⅰ（保育所）を振り返り、実習経験からの学びを整理する。 【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間) 【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして、実習の学びを整理する。(0.5時間)
14	実習の振り返りと自己評価②	保育所 担当 教員	【学習内容】 実習の振り返りと自己評価について、グループディスカッション等のグループワークを通して実習からの学びの情報交換をする。 【事前学習】 自身の実習の振り返りと自己評価の内容を他者に説明できるように簡単なシミュレーションをしておく。(0.5時間) 【事後学習】 ディスカッションや情報交換からの学びも併せて今後の実習への取り組みの見直しを考察する。(0.5時間)
15	今後の課題の明確化	保育所 担当 教員	【学習内容】 保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと自己評価等の学びを整理をベースに、保育実習Ⅱにむけて自己の実習課題を明確にする。 【事前学習】 再度、保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。(0.5時間) 【事後学習】 実習日誌を核に、実習指導の中で配布されたプリント資料等を保育実習Ⅱに生かせるように整理しておく。(0.5時間)
16	施設実習の意義・目的	施設 担当 教員	【学習内容】 施設実習の概要とその意義、目的について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。(0.5時間) 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)
17	子ども家庭福祉の現状と施設の概要	施設 担当 教員	【学習内容】 現代の子どもと家庭が置かれている現状と、支援を担う児童福祉施設の役割について学ぶ。 【事前学習】 「子ども家庭福祉」授業テキストや資料等を活用するなどし、現代の子どもと家庭の現状について概要を調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 支援のニーズと各児童福祉施設の機能と役割について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)

1 8	施設と利用する子どもの理解①	施設 担当 教員	【学習内容】 養護系児童福祉施設の役割と、利用する子どもの背景や理解について学ぶ。 【事前学習】 「子ども家庭福祉」授業テキストや資料等を活用するなどし、養護系児童福祉施設とその利用者についてあらかじめ調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 養護系児童福祉施設の機能と利用者の受け入れや理解について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)
1 9	施設と利用する子どもの理解②	施設 担当 教員	【学習内容】 障害系児童福祉施設の役割と、利用する子どもの背景や理解について学ぶ。 【事前学習】 障害者の理解に繋がる資料やテキストをあたり、障害系児童福祉施設とその利用者についてあらかじめ調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 障害系児童福祉施設の機能と利用者の受け入れや理解について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)
2 0	保育士の役割と支援方法	施設 担当 教員	【学習内容】 児童養護施設における保育者の役割と仕事の内容について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。(0.5時間) 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)
2 1	施設実習の希望調査	施設 担当 教員	【学習内容】 児童養護施設の種類の具体的な実習受け入れ先の情報を知り、希望する実習先を選定する。 【事前学習】 これまでの学んだ児童養護施設の種類と自分自身の実習希望とのマッチングを探しておく。(0.5時間) 【事後学習】 希望を絞り込んだ施設の役割や福祉機能について資料をもとに理解を深める。(0.5時間)
2 2	実習先の決定・グループ分け	施設 担当 教員	【学習内容】 決定された実習先と同じ施設で実習をする学生とグループピングを行い、実習に向けて情報交換を行う。 【事前学習】 希望を絞り込んだ施設の役割や福祉機能について資料をもとに理解を深めておく。(0.5時間) 【事後学習】 同じ施設に実習にいく学生と実習の課題や目的意識を報告共有するようにする。(0.5時間)
2 3	児童福祉施設保育士の講話	施設 担当 教員	【学習内容】 児童養護施設勤務の現場保育士の講話を聞き、現場の実際を学ぶ。 【事前学習】 講師の職場についてあらかじめ施設の種類や特徴について調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 児童養護施設における保育者の仕事について、これまでの学習で理解していたことと実際の様子との差異を認識し、施設と利用者の理解をいっそう深めていく。(0.5時間)

2 4	実習中の心得・目標と課題	施設 担当 教員	【学習内容】 実習生あるいは社会人として利用者の前に立つことを前提にした心構えについて学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や、広く人権擁護と福祉に関わる資料に目を通して置く。(0.5時間) 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て自分自身の日々の生活の有り様を見直す。(0.5時間)
2 5	実習における観察の視点と記録の方法	施設 担当 教員	【学習内容】 利用者のニーズを酌み取り心情理解に繋がる一人ひとりを対象にしたミクロな視点からの観察とその記録の方法を学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間) 【事後学習】 幼稚園や保育所での実習記録・日誌の記述と比較しながら施設実習における観察と記録のコツを理解する。(0.5時間)
2 6	提出書類の作成	施設 担当 教員	【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。 【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理、保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)
2 7	実習報告書の作成	施設 担当 教員	【学習内容】 実習を終えて、実習先で得た情報や学びを、個人情報に配慮しながら報告書にまとめていく。 【事前学習】 実習日誌の記述内容に目を通し、実習経験を報告書にまとめることができるように事前に情報を整理しておく。(0.5時間) 【事後学習】 同じ施設で実習をした学生と報告書の記述内容について比較するなどして実習で得た知見を広げる。(0.5時間)
2 8	実習の振り返りと自己評価①	施設 担当 教員	【学習内容】 保育実習Ⅰ（施設）を振り返り、実習経験からの学びを整理する。 【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間) 【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらかじめ実習日誌を読み返すなどして、実習の学びを整理する。(0.5時間)
2 9	実習の振り返りと自己評価②	施設 担当 教員	【学習内容】 実習の振り返りと自己評価について、グループディスカッション等のグループワークを通して実習からの学びの情報交換をする。 【事前学習】 自身の実習の振り返りと自己評価の内容を他者に説明できるように簡単なシミュレーションをしておく。(0.5時間) 【事後学習】 ディスカッションや情報交換からの学びも併せて今後の実習の取り組みの見通しを考察する。(0.5時間)

30	評価表と自己理解・今後の課題	施設 担当 教員	【学習内容】 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと自己評価および実習先からの評価をベースに、施設実習の学びを「保育者の仕事」として理解を深め、以降の実習への課題に繋げていく。 【事前学習】 再度、保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。（0.5時間） 【事後学習】 単に児童福祉施設における保育者の仕事ではなく、幼稚園や保育所においても必要とされる広義の保育者の役割と仕事の理解に繋がる考察をする。（0.5時間）
----	----------------	----------------	---

科目名			担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育教育基礎研究Ⅰ			飯塚 恭一郎	1	前期	演習	選択	1
			担当形態	複数		ナンバリング		CE1220
			担当教員 飯塚恭一郎・青沼典子・古野愛子・畠中智恵					

幼	科 目	領域および保育内容の指導法に関する科目		選択	
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法			
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目			選択

【キーワード】		【概要】				
1	人との関わり	・ 「人との関わり」について、自らの経験や出会いをもとに、保育者の専門性として理解していく。 ・ サービスラーニングを通して実際の子どものとの触れ合いや遊びを体験する。 ・ 保育や教育における基礎的な技術・技能の必要性を知り、演習を通して保育技術習得の意欲を高める。				
2	子ども理解					
3	自然					
4	遊び					
5	実践					
【到達目標】						
1. 保育の仕事に不可欠な人との関わりについて考えることができる。						
2. サービスラーニングや演習を通して保育に必要な専門的な技術や技能があることがわかり、その修得への意欲を持つ。						
3. 保育者に求められる資質に気づき、考えることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○		
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				○		
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標		受講への取り組み方・意欲態度		課題提出・出席		合計
評価割合（％）		50%		50%		100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が十分である。					
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿があり、課題・提出物の内容がおおむね十分である。					
B	演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が本人の力量相応である。					
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。			
【教科書】			
各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。			
【参考書・参考資料等】			
『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』			
【関連科目】			
幼稚園・保育所 関連科目全般			
【受講心得】			
実践学習、体験学習、グループ活動等は意欲的に取り組むこと。遅刻、欠席はしない			
【備考】			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス	飯塚 青沼	【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（0.5時間）
2	「フレッシュマンセミナー」参加とコミュニケーションワーク	青沼 飯塚 古野 畠中	【学習内容】 学科内初年次教育授業「フレッシュマンセミナー」と兼ねてコミュニケーションワークに取り組む。 【事前学習】 「フレッシュマンセミナー」の資料に目を通し、授業プログラム内容を把握しておく。（0.5時間） 【事後学習】 ワークを通してコミュニケーションを図ることができた仲間について振り返り、自分の立つ位置を自覚する。（0.5時間）
3	自らのこれまでの人間関係を振り返る	古野 畠中	【学習内容】 これからの学校生活、今までの人間関係、今後の希望など自分で振り返り、言葉や文章にして確認する。 【事前学習】 前回の授業内容全体の振り返りをはじめ、これまでの自分自身の学生生活の人間関係について簡単に総括をしておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内のワークにおいて言語化した自らのこれまでの人間関係に関わる経験を振り返っておく。（0.5時間）
4	これまでの人間関係を語り合う	古野 畠中	【学習内容】 3回目の授業で言語化した自らの人間関係に関わる経験を、グループワークを通して他者に伝えると同時に他者の語りに耳を傾け理解に努める。 【事前学習】 自らの人間関係に関わる経験等を他者に伝えられるよう練習をするなど準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 グループワークを通して自分自身の人間関係的な理解と現実に変化があったかどうか振り返る。（0.5時間）
5	春の自然と子どもの遊び	青沼 古野 畠中	【学習内容】 身近な春の自然に親しみ、植物（シロツメクサ）で冠やブレスレットを作るなどして自然物を使った「遊び」を実体験する。 【事前学習】 図鑑やネットを利用して春の植物など自然物にどのようなものがあるか調べておく。（0.5時間） 【事後学習】 春の植物を利用した遊びを自主的に繰り返し遊び込み、その技術を習得する。（0.5時間）

6	サービslラーニング① 「こどもまつり」への参加ガイダンス	飯塚	【学習内容】 保育士養成課程の授業における「サービslラーニング」の意義について説明を受け、「こどもまつり」の概要と学生の役割分担を知る。 【事前学習】 一般的なサービslラーニングについて文献資料やネットを活用し概要を把握しておく。(0.5時間) 【事後学習】 「こどもまつり」実施要項資料を再読し、分担する役割と仕事について理解を深める。(0.5時間)
7	サービslラーニング② 「こどもまつり」参加	青沼 飯塚 古野 島中	【学習内容】 「こどもまつり」に参加し、コーナー遊びの環境設定や実際の子どもの遊びの実態を参与観察する。 【事前学習】 実施要項資料をもとに「こどもまつり」における自らの動きについてシミュレーションをしておく。(0.5時間) 【事後学習】 「こどもまつり」における参与観察のメモや記録を整理しておく。(1.5時間)
8	サービslラーニング③ 「こどもまつり」参加		
9	サービslラーニング④ 「こどもまつり」を振り返る	青沼 飯塚 古野 島中	【学習内容】 サービslラーニング「こどもまつり」での子どもの様子について振り返り、子どもの姿やつぶやきを言語化する。また、振り返りの内容についてグループワークによって情報交換を行い、子どもの姿の理解を進める。 【事前学習】 「こどもまつり」におけるメモや記録をもとにして、振り返りの内容を自分なりにイメージしておく。(0.5時間) 【事後学習】 グループワークでの情報交換の記録やメモをもとに子どもの遊びの実態について理解を深める。(0.5時間)
10	サービslラーニング⑤ 「秋のこどもまつり(仮)」 ガイダンス	飯塚 青沼	【学習内容】 「秋」をテーマにしたサービslラーニング演習の概要と基本プランについて説明を受け、演習の内容を知る。 【事前学習】 「こどもまつり」をベースに保育テキストや文献資料を参考にコーナー保育について調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 秋をテーマにしたコーナー遊びについて、題材になるものを調べる。(0.5時間)
11	サービslラーニング⑥ 「秋のこどもまつり(仮)」 企画・相談	飯塚 青沼	【学習内容】 「秋」をテーマにしたサービslラーニング演習の実施に向けてグルーピングを行い、コーナー遊びの企画と内容を話し合う。 【事前学習】 秋をテーマに調べた題材でコーナー遊びを展開する具体的なアイデアを練っておく。(0.5時間) 【事後学習】 グループでの話し合いの記録をもとに、メンバーで協同していく準備作業内容を整理する。(0.5時間)
12	サービslラーニング⑥ 「秋のこどもまつり(仮)」 準備(1)	古野 島中	【学習内容】 グループ毎に、担当するコーナー遊びの準備作業をメンバーで協同的に進めていく。 【事前学習】 具体的な準備作業工程や役割分担等を再確認しておく。(1.0時間) 【事後学習】 後期に設定されている準備期間も含め、準備作業の進捗状況を正しく把握し、準備の見通しを明らかにしておく。(1.0時間)
13	サービslラーニング⑥ 「秋のこどもまつり(仮)」 準備(2)		

14	基礎的な保育技術の習得に向けて 「絵本読み聞かせ」「パネルシアター」 (夏休みの課題説明)	青沼 飯塚	【学習内容】 保育技術としての「絵本の読み聞かせ」「パネルシアター」について説明を受け、その保育技術の保育的効果を知る。 【事前学習】 あらかじめ保育テキストや文献資料等を参考に、具体的に絵本やパネルシアターについて調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布資料や実際の絵本やパネルシアターに触れてみるなどして保育教材の扱いを実体験する。(0.5時間)
15	基礎的な保育技術の習得に向けて 「手袋シアター」 (夏休みの課題説明)	青沼 飯塚	【学習内容】 保育技術としての「手袋シアター」について説明を受け、その保育技術の保育的効果を知る。 【事前学習】 あらかじめ保育テキストや文献資料等を参考に、具体的に手袋シアターについて調べておく。(0.5時間) 【事後学習】 配布資料や実際の手袋人形等に触れてみるなどして保育教材の扱いを実体験する。(0.5時間)
16			

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅰ		小野 弥生		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	複数		ナンバリング		CE1222	
		担当教員	小野 弥生、水崎 玄					

幼	科 目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		選択必修

【キーワード】	【概要】
1 譜読み	保育・教育現場の実践（演奏）が円滑に行われるための必要不可欠な「楽典」を学ぶ。 又、併せて「声楽」の分野にも触れ、正しい声の出し方や正確な音程での歌い方等を学 び、現場で実践できる様々な歌を情感豊かに歌える技能を身につける。 授業は1コマを前 半後半に分け、「楽典」と「声楽」を学ぶ。
2 音楽の仕組み	
3 演奏法	
4 発声法	
5 表現	

【到達目標】
1. 音楽の基礎知識を習得し、実際のピアノ演奏に役立てることができる。
2. 声楽の分野に触れ、正しい声の出し方を学び様々なジャンルの曲を歌う事ができる。
3. 総合的な音楽教育法を身につけ、現場で実践する事ができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】					
成績指標	定期試験の「楽典」	「声楽」		受講態度	合計
評価割合（％）	50	30		20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度 を満たした成績	合格に至らない 成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
「楽典」理解不足の生徒に対しては授業形式で追加の説明をする。「声楽」課題発表時に改善点を指導する。		
【教科書】		
『あなたも弾けるやさしい童謡唱歌集』 著 豊辻晴香他 『これだけは知ってほしい楽典 初めの一步 保育士、幼稚園・小学校教諭を志す人たちへ』 著 田中美江他 カワイ出版		
【参考書・参考資料等】		
『こどものうた200』『続・こどものうた200』小林美実 編者 チャイルド本社		
【関連科目】		
「音楽表現Ⅱ～Ⅳ」「子どもの表現」「音楽表現指導法」		
【受講心得】		
積極的に授業参加を心がけ、毎回の授業での不明な点は、随時質問する事。		
【備考】		
保育士課程 選択必修		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	全員 「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞授業の進め方と内容の説明。プリントによる楽典に対する習熟度の確認。 ＜事前学習＞テキストに目をとおしておく。（1時間） ＜事後学習＞課題曲の譜読みをする。（1時間）
2	五線譜と音名・腹式呼吸の説明と発声の基礎	全員 「楽典」＜学習内容＞基本的な楽譜の記号の名称と音名。 ＜事前学習＞テキストp4～p7を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞音符から音名が読めるようにしておく（1時間） 「声楽」＜授業内容＞呼吸法と発声法のトレーニングをする。＜事前学習＞課題曲を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞課題曲を一人で歌えるように練習する。授業の到達目標を参考に自己の目標を設定する。（1時間）
3	音の長さ・発声練習「春の歌」	全員 「楽典」＜学習内容＞前回の復習。音の長さと表記法。 ＜事前学習＞テキストp7～p16を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞音名と長さを必ず覚える（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法①課題曲発表。春の歌。 ＜事前学習＞課題曲を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞春の歌を歌えるように練習する。（1時間）
4	リズムと拍子・発声練習「夏の歌」	全員 「楽典」＜学習内容＞前回の復習。リズムの取り方と表記。 ＜事前学習＞テキストp19～p24を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞前回と同じく、音名と長さを必ず覚える（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法①春の歌発表。夏の歌。 ＜事前学習＞夏の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞夏の歌を歌えるように練習する。（1時間）
5	これまでのまとめ・発声練習「秋の歌」	全員 「楽典」＜学習内容＞今までの復習。小テスト形式。 ＜事前学習＞テキストp4～p24を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞プリントで間違った部分を必ず理解する（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法②夏の歌発表。秋の歌。 ＜事前学習＞夏の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞秋の歌を歌えるように練習する。（1時間）
6	音程・発声練習・「冬の歌」	全員 「楽典」＜学習内容＞2音間の距離。8回目授業の説明。 ＜事前学習＞テキストp27を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞音名と長さの確認し、鍵盤と連動させる（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法②発表会の準備、冬の歌。 ＜事前学習＞秋の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞グループで発表会の準備をする。（2時間）

7	発表会のためのグループワーク	全員	「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞グループによる発表会の準備、練習をする。 ＜事前学習＞グループで発表会の準備をする。(2時間) ＜事後学習＞グループで発表会の練習をする。(2時間)
8	発表会	全員	「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞発表会 ＜事前学習＞グループで発表会の準備をする。(2時間) ＜事後学習＞冬の歌を歌えるように練習する。(1時間)
9	音階と調・子どもへの歌唱指導法	全員	「楽典」＜学習内容＞曲の雰囲気などを決定する調性の説明。 ＜事前学習＞テキストp35～p42を読ん でおく。(1時間) 事後学習＞日本語での音名 を確認。(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法③冬の歌発表、歌唱指導法。 ＜事前学習＞冬の歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞ハンドサインを入れた歌の練習をする。(1時間)
10	和音・発声練習「行事の歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞音楽の色を決める和音の説明。 ＜事前学習＞テキストp43～p50を読ん でおく。(1時間) 事後学習＞楽譜を見てその和音をピアノで弾く。(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法③ハンドサインを入れた歌の 発表。行事の歌。 ＜事前学習＞ハンドサインを入れた歌の練習。(1時間) ＜事後学習＞行事の歌を歌えるように練習する。(1時間)
11	コードネーム・発声練習「わらべ歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞英語で和音を表記。 ＜事前学習＞p27.28とp51を読ん でおく。(1時間) 事後学習＞楽譜を見てその和音をピアノで弾く。(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法④行事の歌発表。わらべ歌 等。 事後学習＞行事の歌を歌えるように練習する。 ＜事後学習＞わらべ歌を歌えるように練習する。
12	様々な表示法・手話を用いた歌や手遊び歌	全員	「楽典」＜学習内容＞言葉で表記されているものを理解す る。 ＜事前学習＞テキストp57～p61を暗記する。(1時間) ＜事後学習＞p63をして、暗記する。(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法④わらべ歌発表。手遊び歌 等。 ＜事前学習＞わらべ歌を歌えるように練習する。 ＜事後学習＞手遊び歌を歌えるように練習する。
13	教員による公演鑑賞・楽典の復習	全員	「楽典」「声楽」＜学習内容＞教員による公演を鑑賞す る。 ＜事前学習＞今までのテキストを読み直す。手遊び歌を歌 えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞今までのテキストを読み直す。歌唱表現につ いて考える。手遊び歌を歌えるように練習する。(1時間)
14	楽典の復習・発表会や身体表現の歌	全員	「楽典」＜学習内容＞今までの総復習をテスト形式で実 施。 事後学習＞授業で使 用したプリント等を全て確認。(1時間) 事後学習＞問 違ったところを理解する。(1時間) 「声楽」 ＜学習内容＞手遊び歌発表。発表会の歌等。 ＜事前学習＞手遊び歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞発表会の歌等を歌えるように練習する。(1時間)
15	総まとめ・試験対策	全員	「楽典」＜学習内容＞今までの総復習をテスト形式で実 施。 ＜事前学習＞授業で使 用したプリント等を全て確認。(1時間) ＜事後学習＞間違っ たところを理解する。(1時間) 「声楽」＜学習内容＞総復習、試験対策。 ＜事前学習＞発表会の歌等を歌えるように練習する。(1時間)

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅱ		豊辻 晴香	1	前期	演習	選択	1
		担当形態	複数教員		ナンバリング		CE1233
		担当教員	下村恭子・多田裕子・豊辻晴香 福田陽子・水崎玄・淀川典子				

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分 又は事項等				
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目			選択必修

【キーワード】		【概要】				
1	ピアノ演奏	少人数のクラス編成で、各自のレベルに合わせマンツーマンのピアノ指導を行う。基礎となるスケール・カデンツをしっかりと学び、それらに応用したコードネームの和音で弾き歌いができるようにする。クラス内、又は全体で定期的に発表会を経験する事で、人前での演奏に慣れるとともに、様々な楽曲の知見を深める。				
2	弾き歌い					
3	読譜力					
4	スケール（音階）					
5	コードネーム					
【到達目標】						
1. 正しい読譜力や適切な運指法を身に付け、ピアノを演奏できる。						
2. ピアノを弾きながら歌う事ができる。						
3. 実践に必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を音楽的に表現し、子どもの前で演奏できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○		
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				○		
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標		取り組み姿勢・授業態度		実技試験	合計	
評価割合（％）		60		40	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を活かし優れた演奏である。					
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を活かした演奏である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれない演奏である。					
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる演奏である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
実技試験の評価について、口頭もしくはコメントなどで伝える。		
【教科書】		
『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院 / その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】		
『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社		
【関連科目】		
「音楽表現Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」「音楽表現指導法」「子どもと表現」		
【受講心得】		
ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。		
【備考】		
保育士課程選択必修		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	入学前課題曲発表会 および オリエンテーション	各教員 ＜学習内容＞入学前に配付された課題曲を演奏する。また、本授業の目的や進行等について理解する。 ＜事前学習＞発表会に向けて、練習に励む。（3時間） ＜事後学習＞発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
2	ピアノ演奏の基礎①	各教員 ＜学習内容＞ハ長調の音階とコードを学ぶ。そしてハ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
3	ピアノ演奏の基礎②	各教員 ＜学習内容＞ト長調の音階とコードを学ぶ。そしてト長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
4	ピアノ演奏の基礎③	各教員 ＜学習内容＞ニ長調の音階とコードを学ぶ。そしてニ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
5	ピアノ演奏の基礎④	各教員 ＜学習内容＞ヘ長調の音階とコードを学ぶ。そしてヘ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
6	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い①	各教員 ＜学習内容＞実践に必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を、両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
7	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い②	各教員 ＜学習内容＞実践に必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を、両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）

8	全体発表会	各教員	<学習内容>任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場合におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間) <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)
9	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い③	各教員	<学習内容>実践に必要な曲(生活の歌・季節の歌・行事の歌など)を、両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
10	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い④	各教員	<学習内容>実践に必要な曲(生活の歌・季節の歌・行事の歌など)を、両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
11	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎①	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
12	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎②	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
13	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎③	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
14	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎④	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
15	試験に向けての課題曲総仕上げ	各教員	<学習内容>これまでの合格曲の把握し、より音楽的に試験曲を演奏できるよう練習する。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間) <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)
16	実技試験		

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習指導			難波 章人		1	通年	演習	選択	1
			担当形態	オムニバス	ナンバリング			CE1224	
			担当教員	青沼典子 谷川裕子					

幼	科 目	教育実践に関する科目			必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等		教育実習		
保	系 列				

【キーワード】		【概要】	
1	教育実習	教育実習は教育・保育を行う現場を直接体験することができる貴重な機会である。そのために実習においては何を観察し、何を学びとするのかを明確にすることでより充実した実習を行うことができるようになる。そこで本授業では教育実習を行うための事前指導として現場に出るための心構えを学び、保育の観察の仕方、子どもの遊びの展開と保育の構造化と指導計画の立案、具体的な指導方法の研究を学びとして、教育実習に求められる知識・技能・態度を具体的な演習形式で学ぶ。また実習後には実習を振り返り、学びを深める	
2	幼稚園		
3	事前指導		
4	事後指導		
5	観察		

【到達目標】	
1. 教育実習の意義や目的が理解できる。	
2. 日誌における観察の視点を理解し、記録することができる。	
3. 実習の手続き等自主的に進めることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標		取り組み姿勢	提出物	合計
評価割合（％）		60%	40%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	幼稚園教諭を目指すという明確な目標を持ち、なおかつ主体的に取り組む。講義内容も十分に理解している。		
A	実習生としての自覚を持ち、課題に対して必要な内容を理解している。		
B	実習内容を総じて理解し、課題に対して取り組んでいる。		
C	実習内容を理解しており、課題に対して最低限の評価が可能である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
【教科書】			
『実習の手引き』純真短期大学こども学科			
『幼稚園教育要領解説』文科省フレーベル館			
【参考書・参考資料等】			
適宜紹介			
【関連科目】			
「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」			
【受講心得】			
教育実習を前提とした科目であるため、特別な理由を除き欠席することなく参加すること。			
欠席した場合は授業内容を担当教員に確認すること。			
【備考】			
幼稚園教諭課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	幼稚園教諭の資質と教育実習の意義・目的	青沼	【学習内容】 幼児教育の理論を理解し、幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割を理解する。また教育実習の意義・目的を確認する。 【事前学習】 幼稚園教育要領第1章総則を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
2	実習における心構え・姿勢・作法	谷川	【学習内容】 実習において学びの明確な目標を持ち、保育者をめざす姿勢を具体的に学びます。 【事前学習】 実習手引き第3章を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
3	実習園の選定・概要および個人調書の記入	難波	【学習内容】 実習園に向けて情報収集の仕方と選定する方法を学び、実習園への書類作成をします。 【事前学習】 自身の履歴を確認しておく。（1時間） 【事後学習】 書類の書き上げ（1時間）
4	観察記録の意義・視点について	青沼	【学習内容】 実習においての観察の際の視点とその記録方法について学びます。 【事前学習】 記録の仕方について調べておく。（1時間） 【事後学習】 学習内容を振り返り整理する。（1時間）
5	保育技術の習得	青沼	【学習内容】 現場で即実践できるペープサートや絵本、手遊び等を実践する。 【事前学習】 手遊び等の練習（1時間半） 【事後学習】 自己課題を記述する。（0.5時間）

6	指導案の立案	青沼	【学習内容】 発達に応じた指導案を立案する 【事前学習】 発達に応じた子どもの姿を調べておく。 (1時間) 【事後学習】 立案の見直し (0.5時間)
7	教育実習 I における評価	谷川	【学習内容】 教育実習 I における記録と実習園からの評価に基づき、自己課題を見出す 【事前学習】 教育実習日誌を振り返る。(0.5時間) 【事後学習】 学習内容を振り返り整理する。(0.5時間)
8	教育実習 I の振り返り	難波	【学習内容】 教育実習の振り返りを小グループで行い、意見をまとめ全体で発表する。 【事前学習】 教育実習日誌を振り返る。(0.5時間) 【事後学習】